

一般国道 253 号

上越三和道路関係発掘調査報告書 14

堂古遺跡Ⅱ 第3次調査

2022

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

一般国道 253 号

上越三和道路関係発掘調査報告書 14

堂^{どう}古^こ遺跡Ⅱ 第3次調査

2022

公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

一般国道 253 号上越三和道路は上越市寺と上越市三和区本郷を結ぶ地域高規格道路（自動車専用道路）で、上越市から南魚沼市に至る一般国道 253 号上越魚沼地域振興快速道路の一部です。この上越魚沼地域振興快速道路は、上越地方の生活圏と魚沼地方の生活圏を相互に連絡して広域ネットワークを形成し、広域的な地域の連携強化・活性化、道路交通の安全性・信頼性の確保、救急救命の支援などを目的としています。

本書は、この上越三和道路建設事業に先立ち、2021 年度に実施した堂古遺跡第 3 次調査の発掘調査報告書です。第 1・2 次調査の発掘調査報告書は 2017 年にすでに刊行しております。

堂古遺跡は第 1・2 次調査では 13 世紀から 15 世紀を中心とする中世の集落で、掘立柱建物や井戸、溝などの遺構が確認できました。第 3 次調査では、前回調査の南東側を調査しました。調査範囲は限られたものでしたが、多くの遺構を検出しました。井戸が多く中から遺物も多く出土しました。前回調査区から続く複数の溝も延伸し、屋敷の区画になる可能性がいっそう高くなりました。

発掘調査で得られた資料や本報告書が埋蔵文化財の理解や認識を深める契機となり、地域の歴史資料として広く活用されることを期待します。

最後に、この発掘調査に多大な御協力と御理解をいただいた上越市教育委員会並びに地元の方々、また、発掘調査から本書の作成まで格別のご配慮をいただいた国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所に対して、厚くお礼申し上げます。

2022（令和 4）年 8 月

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

理事長 妹尾 浩 志

例 言

- 1 本書は、新潟県上越市米岡字堂古に所在する堂古遺跡第3次調査の発掘調査記録である。第1・2次調査の報告書は『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第269集 堂古遺跡 下割遺跡Ⅵ 二反割遺跡Ⅱ』〔飯坂・山崎¹⁾2017〕として刊行済である。
- 2 発掘調査は一般国道253号上越三和道路の建設に伴い国土交通省（以下、国交省）から公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団）が受託したものである。
- 3 埋文事業団は発掘調査・整理業務・関連工事等の一部業務を株式会社ノガミに委託して発掘調査を実施した。
- 4 整理作業及び報告書作成に係る作業は2021年度に行い、報告書の印刷発行は2022年度に行った。
- 5 出土遺物及び調査・整理作業に係る各種資料は、一括して新潟県が新潟県埋蔵文化財センターにおいて保管している。遺物の注記は、略号を「21ドウコ」とし、出土地点や層位等を併記した。
- 6 本書の図中で示す方位は、すべて真北である。
- 7 本書に掲載した遺物番号は種別に関わりなく通し番号とし、本文及び挿図・遺物観察表・遺物図版・写真図版の番号はすべて一致している。
- 8 引用・参考文献は著者及び発行年（西暦）を本文中に〔 〕で示し、巻末に一括して掲載した。自然科学分析については、節末に掲載した。
- 9 調査成果の一部については財団広報紙『埋文にいがた』第115号、2021（令和3）年度『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報』、『冬季企画展 発掘！新潟の遺跡2021』などで公表しているが、本書の記述をもって正式な報告とする。
- 10 自然科学分析はパリオ・サーヴェイ株式会社に委託し、分析結果は田中義文・松元美由紀が執筆した。
- 11 遺構図のトレース及び各種図版作成・編集に関しては有有限会社不二出版に委託してデジタルトレースとDTPソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 12 本書の執筆は佐藤友子（埋文事業団）、藤本陸之・高尾将矢（以上、株式会社ノガミ）が当たり、編集は佐藤が担当した。執筆分担は以下の通りである。なお、第1章1・2A、第2章、第3章は『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第269集 堂古遺跡 下割遺跡Ⅵ 二反割遺跡Ⅱ』〔飯坂・山崎¹⁾前掲〕を一部改変して引用する。
第1章2C・D……佐藤、第4章・第7章1……高尾、第1章2B・第5章・第7章2……藤本
- 13 図書館等（著作権法第31条第1項に規定する図書館等をいう。）の利用者は、その調査研究の用に供するために、本報告書の全体について、複製することができる。
- 14 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々及び機関から多くの御教示・御協力をいただいた。ここに記して厚くお礼申し上げる。（五十音順、敬称略）

国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所 上越市教育委員会 上越市米岡町内会
関川水系土地改良区 水澤幸一

目 次

第I章 序 説	1
1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過	2
A 試掘・確認調査	2
B 本発掘調査	3
C 整理作業	4
D 本発掘調査・整理体制	4
第II章 遺跡の位置と環境	5
1 遺跡周辺の地理的環境	5
2 遺跡の分布と歴史的環境	7
第III章 調査の概要	10
1 グリッドの設定	10
2 基本層序	10
第IV章 遺 構	12
1 記述の方法と形状の分類	12
2 遺構各説	13
A 井 戸	13
B 溝	16
C 土坑・ピット	17
第V章 遺 物	22
1 概 要	22
2 土器・陶磁器	22
A 遺構出土	22
B 遺構外出土	24
3 石 製 品	24
A 遺構出土	24
B 遺構外出土	25
4 木 製 品	25
A 遺構出土	25
5 金属製品	25
A 遺構出土	25

第VI章 自然科学分析	26
1 樹種同定と種実同定	26
A はじめに	26
B 試料と方法	26
C 結 果	26
D 考 察	28
第VII章 ま と め	29
1 遺 構	29
2 遺 物	31
〈引用・参考文献〉	32
〈観 察 表〉	34

挿 図 目 次

第1図 上越三和道路の路線と調査遺跡の位置	1	第6図 グリッド設定図・基本層序図	11
第2図 堂古遺跡試掘・確認調査トレンチ位置図	2	第7図 遺構平面形態・断面形態の分類と 堆積状況図	12
第3図 堂古遺跡本調査必要範囲と 2014・2015・2021年度本調査範囲	3	第8図 木材・種実遺体	27
第4図 周辺の地形	6	第9図 馬小屋・馬洗い場遺構 平面断面図	30
第5図 周辺の主な遺跡	8		

表 目 次

第1表 周辺の主な遺跡	9	第4表 樹種同定結果	26
第2表 古代の歴年代	22	第5表 種実同定結果	27
第3表 珠洲航の歴年代	22		

図 版 目 次

【図面図版】

図版 1 調査範囲図
図版 2 遺構全体図
図版 3 遺構個別図 1・遺構個別図 1
図版 4 遺構個別図 2・遺構個別図 2
図版 5 遺構個別図 3
図版 6 遺構個別図 4
図版 7 遺構個別図 5
図版 8 遺構個別図 6
図版 9 遺構個別図 7
図版 10 遺構個別図 8
図版 11 土器・陶磁器 (1)
図版 12 土器・陶磁器 (2)・銭貨
図版 13 石製品・木製品

【写真図版】

図版 14 全景
図版 15 遠景
図版 16 井戸 1
図版 17 井戸 2
図版 18 井戸 3
図版 19 井戸 4
図版 20 井戸 5・溝 1
図版 21 溝 2
図版 22 土坑・ピット 1
図版 23 ピット 2
図版 24 土器・陶磁器
図版 25 土器・陶磁器・石製品・銭貨
図版 26 木製品・石製品

2014年度の堂古遺跡の本調査（第1次）は、平成26年3月19日付けで国交省から県教委に依頼があり、県教委は「平成26年3月31日付け教文第1580号の2」で埋文事業団に調査の実施を依頼した。2015年度の本調査（第2次）は「平成27年3月5日付け国北整高二調第54号」で国交省から県教委に依頼があり、県教委は「平成27年3月12日付け教文第1477号の2」で埋文事業団に依頼した。なお、2014・2015年度本調査範囲は道路法線の暫定供用部分のみで、依頼範囲について調査を終了した。2か年分の調査成果の報告書は2017年度に刊行されている〔飯坂・山崎はら前掲〕。

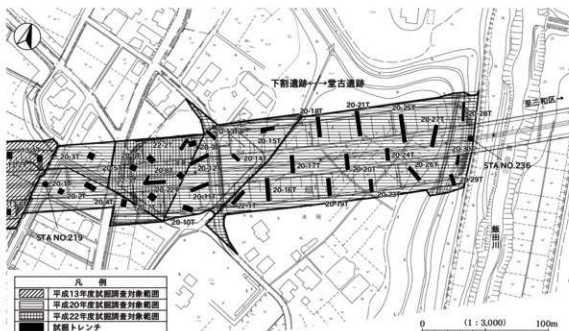
2021年度の本調査範囲は国交省が道路工事に係る範囲を精査したところ、遺跡の本調査範囲が不足していたことから追加されたものである。「令和3年2月24日付け国北整高二調第37号」で国交省から県教委に依頼があり、県教委は「令和3年3月8日付け教文第1405号」で埋文事業団に調査の実施を依頼した。

2 調査の経過（第2・3図）

A 試掘・確認調査

調査は対象範囲にトレンチ（略号T）を設定し、重機（バックホー）及び人力による掘削・精査を行い、遺構・遺物の有無を確認した。その後、トレンチの位置や上層の堆積状況などを図面・写真などに記録する方法を採用した。以下は、前回報告書〔飯坂・山崎はら前掲〕P2から堂古遺跡に関わる内容のみを転載した。

堂古遺跡に係る試掘調査は2008年8月27日から29日、11月17日から21日にかけて22,700㎡を対象として、(STANo.219付近～236付近)、トレンチ30か所、合計780㎡を調査した。(第2図20-1～30T)。その結果、18か所のトレンチで中世以前の遺構（溝・井戸・土坑・柱穴）を確認し、17か所のトレンチで中世以前の遺物（土師器・珠洲焼）が出土した。そのため、20-1～15T間は下割遺跡の範囲拡大とした。20-16～27間は堂古遺跡として新規登録し、11,006㎡について本調査が必要とした。



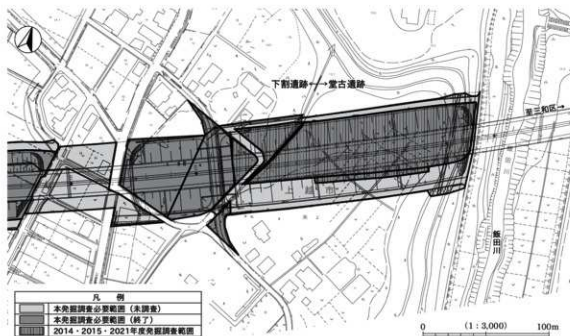
第2図 堂古遺跡試掘・確認調査トレンチ位置図（トレンチ番号は「調査年度（元号）-トレンチNo.」を表す）

B 本発掘調査(第3次調査, 2021年度)

2021年度の調査は、273m²を対象に5月10日から6月23日まで実施した。調査範囲は前回の調査地の南西に隣接する幅約4.6m、長さ約90.7mの範囲となる。5月上旬から準備に着手し、草刈りや調査範囲の設定、搬入路の確保、機材の搬入を行った。5月12日から14日までは遺構検出面(Ⅲ層)までの表土除去を重機にて行った。前回調査との整合性を保つため、北西側に0.5m程調査(掘削)範囲を重複させている。

5月17日から作業員を動員した。主にジョレンと両刃カマを用いて整地、遺構検出を行った。前回の調査から連続する井戸(SE313)、溝(SD318, SD328, SD366, SD510)の他、多数の井戸、溝、土坑、ピット(小穴)を検出した。19日には、検出状況の空中写真をドローンにて撮影。オルソ画像から略図を作成して検出状況図として遺構番号を付した。20日からは移植ゴテや竹ベラ等を用いて遺構の掘削をはじめた。遺物の取り上げは2mごとの小グリッドを基本とし、遺構出土の遺物はこれに遺構名を付した。記録作成については随時、遺構断面および完掘写真をデジタルカメラで撮影を行った。図面の作成は、断面図は手測り、平面図はトータルステーションにて計測した。深さが1m以上に及ぶことが想定される井戸や土坑については、崩落等による安全が確保できないため、およそ1mの深さを基準に完掘として、写真撮影後に重機による断割りなどの補足調査をすることとした。

6月8日、遺構の完掘作業と並行して空撮準備(清掃)に着手した。11日にはすべての遺構を完掘した。同日、ラジコンヘリコプターによる航空写真撮影を行い、県教委の終了確認を得た。撮影後、平面図等の計測を行うとともに、深度の関係で底面まで調査できていなかった遺構の断割りの準備をはじめた。断割りは原則、半截(断面図を計測したライン)と同じ方向に設定したが、隣接する遺構との関係で反対方向を断割った遺構もある。遺構の断割りは、迅速、安全を配慮して重機を用いた。断割り後は崩落等の危険を考慮して長時間放置することを避け、直ぐに写真撮影、断面図補足の記録作成を行った。16日にはすべ



第3図 堂古遺跡本調査必要範囲と2014・2015・2021年度本調査範囲

2 調査の経過

ての遺構の断削りと補足調査、記録作成を終えた。最終調査面積は415m²であった。

翌17日から21日まで埋め戻しを行い、22・23日に機材等の撤去を行いますべての調査を終了した。同日、国交省に現地を引き渡した。

C 整理作業

2021年度の整理作業は現地調査と並行しながら進めた。遺物の洗浄・註記・遺構記録類の整理の一部は現地事務所及び株式会社ノガミの整理所で行った。現地調査終了後の12月から、報告書作成に係る本格的な遺構・遺物図版の作成、原稿執筆、編集作業などを株式会社ノガミの整理所で行った。2021年度分の整理作業は3月末に終了した。その後、2022年8月に報告書を印刷・刊行した。

D 本発掘調査・整理体制

1) 試掘調査

堂古遺跡第3次調査に係る試掘調査の体制は以下のとおりである。

調査期間	2008年8月27～29日、11月17～21日
調査主体	新潟県教育委員会（教育長 武藤克己）
調査	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
総括	木村正昭（事務局長）
管理	斎藤 栄（総務課長）
庶務	長谷川靖（同 班長）
調査総括	藤巻正信（調査課長）
調査担当	田海義正（同 課長代理）
調査員	島野義昭（同 主任調査員）

2) 本発掘調査・整理作業

堂古遺跡第3次調査に係る本発掘調査・整理体制は以下のとおりである。

調査期間	2021年5月10日～6月23日
整理期間	2021年12月1日～2022年3月31日
調査主体	公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 稲荷善之）
総括	清野一善（事務局長）
管理	五十嵐大介（総務課長）
庶務	小野澤浩嗣（同 班長）
調査総括	春日真実（調査課長）
調査担当	佐藤友子（同 課長代理）
支援	株式会社ノガミ 現場代理人 吉澤和幸 調査員 藤本陸之、高尾得矢 補助員 石山幸恵

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

遺跡の位置と環境について、新潟県埋蔵文化財調査報告書第 269 集『堂古遺跡 下割遺跡Ⅵ 二反割遺跡Ⅱ』〔飯坂・山崎ほか掲掲〕を一部改変して引用する。

1 遺跡周辺の地理的環境（第 4 図）

堂古遺跡が立地する高田平野は新潟県南西部に位置する沖積平野である。その形状は上越市五智、同柿崎区竹花、同三和区岡田、妙高市小出雲付近を頂点とする不等辺四角形となっている。北辺は長さ 20km にわたり新潟砂丘が発達し、海岸と平野を区画している。東辺から南東辺には東頸城丘陵が広がり、柏崎平野・新潟平野・十日町盆地・長野盆地と高田平野を隔てている。東頸城丘陵北端には米山を主峰とする米山山地、南東部には信越国境を成す関田山脈、南端には斑尾山がそびえている。西辺には西頸城丘陵が広がり海岸に沿って西方に延び、糸魚川市の平野部と高田平野を隔てている。西頸城丘陵南方には西頸城山地が連なり、その北端には青田難波山、南端には主峰の火打山がそびえ、南には富士火山帯の北端に位置する焼山及び妙高山が連なり、平野南端は妙高山の岩屑流や火砕流により形成された丘陵と接している。

高田平野にはこれら周辺の山地や山脈、丘陵から多数の河川が流入している。最大の河川である関川は、火打山・妙高山及び長野県との県境となる高妻山・乙妻山付近を水源とし、途中、太田切川・矢代川・青田川・横明川・藤池川・飯田川・保倉川などと合流し、平野西側を北流して日本海に注ぐ。また北東部では東頸城丘陵・米山山地を水源とする吉川・大出口川・柿崎川などが高田平野に流出し、日本海に注いでいる。北東部から南西部にかけて、これら河川により形成された扇状地が発達している。

高田平野の地形面は階段状で、最も低い関川氾濫原面・関川面・最も高い高田面の 2 段の沖積段丘から構成される。堂古遺跡が立地する高田面は主に礫・砂・シルトの互層からなる高田層によって形成された堆積面であり、その分布は平野の大部分を占める。平野の中央部において高田面の表層地質や珪藻遺骸について検討した結果、この地域には沼沢地のような環境が広がっていたことが明らかになっている〔高田平原団体研究グループ 1962〕。また平野に分布する遺跡を検討した結果、高田面は古墳時代初頭から段丘化し始め、数回に及ぶ洪水堆積物によって覆われながら、平安時代には完全に段丘化したと考えられている〔高田平原団体研究グループ 1980、岡本 1999〕。しかし、堂古遺跡から約 3.5km 西に位置する狐宮遺跡（第 5 図 5）では、縄文時代草創期（15000 年前）の石器や後期・晩期の土器が出土しており、少なくとも縄文時代後半には人々が居住できる環境が整っていた可能性があり、高田面の形成年代については検討が必要であろう〔飯坂・河崎ほか 2007〕とされていた。そして 2021 年の下割遺跡第 9 次調査〔細田 2021、佐藤 2021〕に於いて、現地表下 4m に縄文時代後期前葉～中葉の集落が調査されるに及んで確定的になった。

堂古遺跡は飯田川左岸の自然堤防上に立地する。左岸の飯田川と関川との間には小規模な自然堤防が点在し、その分布は一定の方向性をもって配列している。このような自然堤防上の微高地に集落も成立している。

2 遺跡の分布と歴史的環境（第5図・第1表）

堂古遺跡が立地する高田平野とその周辺に広がる古墳時代から中世の主な遺跡の分布は第5図に示すとおりである。平野内における古代の遺跡は、多くが各流域の自然堤防上や扇状地に位置する〔笹澤2003a〕。この傾向は古墳時代の集落や城館跡を除く中世の遺跡でも同様である〔戸根2003〕。

古墳時代 高田平野は平野緑線の丘陵上を中心に中期から後期の群集墳が密集する古墳の集中域である。飯田川流域でも国指定史跡の水科古墳群（10）・宮口古墳群（11）などが所在する。

集落遺跡として、前期は下割遺跡（2）・津倉田遺跡（12）・一之口遺跡（23）北割遺跡（13）・荒町南新田遺跡（14）などが自然堤防上などで多く確認されている。飯田川流域の津倉田遺跡と下割遺跡からは畿内系のタタキ甕や布留甕が出土しており、なかでも下割遺跡は畿内系タタキ甕の出土量が多い〔山崎・金子ほか2004、尾崎・長沼ほか2011〕。2019年には第五部遺跡も調査されている。中期の集落としては月岡遺跡（20）・倉田遺跡（21）・北割遺跡などが挙げられるが、その数は減少する。後期以降は再び増加し、荒町南新田遺跡（14）・宮ノ本遺跡（33）・杉明遺跡・岡嶺遺跡などが平野部南西部の段丘上や扇状地周辺で確認されるようになる。2020年の下割遺跡の第8次調査で北方系とみられる土器が出土し、後期としては最南端の出土地になる可能性があり注目されることである。

古代 高田平野は古代の頸城部に位置する。頸城郡は大室2（702）年に古志部・魚沼部・蒲原部とともに越中国から越後国に編入された。越後国に編入後、頸城郡に国府が置かれたことが「和名類聚抄」に記載されている。その所在に関しては、先学によって複数の推定地が提示されているが、国府関連遺跡としては、関川右岸の段丘に立地する今池遺跡（15）と周辺の子安遺跡（16）・下新町遺跡（17）が挙げられる。この3遺跡に本長者原廃寺（18）を加え「今池遺跡群」と総称している。今池遺跡は8世紀前半～9世紀前半の東西棟の掘立柱建物が多数検出され、円面硯や瓦片、近畿地方から搬入された土器が出土している。〔坂井ほか1984〕子安遺跡は今池遺跡の衰退後に遺構数が増加し、この地域の中核となる遺跡である〔坂井ほか前掲、野村ほか2009〕。本長者原廃寺は南北に主軸を持つ基壇跡や、今池遺跡との位置関係などから国分寺跡と推定されている〔小島・中村1984〕。また、関川と矢代川の間の段丘上に立地する栗原遺跡（19）は頸城郡衙に関連する遺跡と考えられる。栗原遺跡は8世紀初頭～中葉の遺跡で、周辺の同時期の遺跡として月岡遺跡（20）・倉田遺跡（21）・東沖遺跡（22）が位置する。栗原遺跡では基壇跡や大型の掘立柱建物が検出され、「郡」と記された墨書土器や帯金具が出土している〔坂井ほか1982、高橋1984〕。倉田遺跡では規格性のある建物が検出され、その配置には計画性が認められている。周辺の頸城郡衙に関連する栗原遺跡との関係性から、曹司の一角と推測されている〔佐藤2013〕。

堂古遺跡周辺の8世紀～9世紀代を中心とする遺跡は、下割遺跡（2）・三角田遺跡（6）・延命寺遺跡（7）・狐宮遺跡（5）・越前遺跡（9）などがある。下割遺跡では2021年の第9次調査で自然流路から9世紀代の木簡2点と祭祀具、墨書土器が多く出土した〔佐藤2021〕。三角田遺跡では8世紀～9世紀にかけて集落が営まれ、それに伴う畠が検出された〔沢田・細井ほか2006〕。微高地とその周縁において居住・生産活動が行われたと推定される。延命寺遺跡では木簡が21点出土し、その中に現在の地名との関係性を伺えるものもあった。帯金具・具注層などの出土から官衙的な性格の遺跡と推定される〔山崎・島野ほか2008〕。狐宮遺跡は川辺に営まれた集落で、竪穴建物・掘立柱建物・井戸などとともに、畠が検出された。遺跡では石製腰帯具や墨書土器が出土した〔坂飯・河崎ほか前掲〕。越前遺跡では、自然流路に沿って計画



第5図 周辺の主な遺跡 (飯坂・山崎²⁰¹⁷を改変)

【国土地理院発行「高田平野東部」・「高田平野西部」(稀崎) 1:50,000 原図】

No	遺跡名	主な時代	No	遺跡名	主な時代	No	遺跡名	主な時代
1	堂古遺跡	古墳～中世	15	今池遺跡	奈良・平安	29	樋田遺跡	中世
2	下割遺跡	縄文・古墳～近世	16	子安遺跡	弥生～中世	30	水久保遺跡	中世
3	二反別遺跡	古墳～中世	17	下新町遺跡	弥生～平安	31	用言寺遺跡	平安・中世
4	清水田遺跡	平安～近世	18	本長者原廃寺	奈良	32	池田遺跡	平安・中世
5	狐宮遺跡	縄文～古代	19	栗原遺跡	奈良	33	宮ノ本遺跡	古墳・中世
6	三角田遺跡	古代～近世	20	月間遺跡	古墳～平安	34	末野宮跡	平安
7	延命寺遺跡	古墳～奈良	21	倉田遺跡	古墳・奈良	35	日向宮跡	奈良
8	屋敷割付遺跡	平安	22	東沖遺跡	奈良・平安	36	下馬場古窯跡群	飛鳥
9	越前遺跡	奈良・平安	23	一之口遺跡	古墳～平安	37	滝寺古窯跡群	奈良・平安
10	水科古墳群	古墳	24	八反田遺跡	縄文～近世	38	大貫古窯跡群	平安
11	宮口古墳群	古墳	25	山畑遺跡	弥生・飛鳥	39	向橋古窯跡群	奈良
12	津倉田遺跡	古墳～奈良	26	岩ノ原遺跡	平安	40	至徳寺跡	中世
13	北朝遺跡	古墳	27	海道遺跡	平安～近世	41	御館跡	中世
14	荒町南新田遺跡	弥生～中世	28	横曾根遺跡	中世	42	安国寺	中世

第1表 周辺の主な遺跡（表の番号は第5図の番号と一致する）

的に配置された遺構が検出され、遺物では律令祭祀具や大量の墨書土器が出土したことから、公的機関または富裕層が関与した遺跡と推定されている〔笹澤 2003b〕。

古代の窯跡は高田平野緑線の丘陵に立地する。東頸城丘陵には末野窯跡（34）・日向窯跡（35）などがある。西頸城丘陵には下馬場古窯跡群（36）・大貫古窯跡群（38）・向橋古窯跡群（39）などが分布する。高田平野の須恵器生産は7世紀末に下馬場古窯跡群で開始され、8世紀代に活発化するが、9世紀中葉に佐渡国の小泊窯跡群産が越後国に流通し始めると衰退する〔笹澤 2002〕。向橋古窯跡群は、瓦陶兼業の窯跡で時期は8世紀第3四半期と推定されている〔笹澤 2003c〕。

中世 中世になると直江津地域が中世都市として発展する。直江津地域には守護所と考えられる至徳寺跡（40）、上杉氏の居館である御館跡（41）や安国寺（42）などが立地している〔戸根前掲〕。御館跡は弘治年間（1555～1558年）に上杉謙信によって造営されたが、謙信の跡目争いで景虎側が争った「御館の乱」では景虎側の拠点となり、天正7（1579）年に落城したことが知られる。至徳寺跡は11世紀～13世紀前半・14世紀末～16世紀初頭・16世紀末～17世紀前半の遺物が出土した。遺構は中世前期では饗宴に用いられたと思われる大量の土器が出土した土坑などがあり、中世後期には幅6～8mの堀が構築される。堀間の距離は約250mで、全周していると考えると一辺が2町を超える。守護所に比定する説が有力であるが、至徳寺との関係など、不明瞭な部分も多い〔鶴巻・水澤 2003〕。

堂古遺跡に隣接する下割遺跡と清水田遺跡（4）は水田などの生産域を含む集落遺跡である。清水田遺跡からは鉄鍋や鉄瓶のほか70枚以上の銭貨が出土している〔佐藤・城前ほか2015〕。下割遺跡 2002・2003年度調査分・樋田遺跡（29）・水久保遺跡（30）子安遺跡（16）は溝が建物群を区画し、複数の屋敷地が集合して集落を形成している〔山崎・外山ほか2003、山崎・金子ほか前掲〕。横曾根遺跡（28）は幅3～6mの溝で区画され、40～50mの方形地割が推定できる。居館としての性格が窺え、青磁酒海蓋なども出土している〔水澤 2003〕。用言寺遺跡（31）は居住域と生産域が一体に検出できた事例で、散村的な景観が窺える〔加藤・杉田ほか2006〕。

第三章 調査の概要

1 グリッドの設定、2 基本層序については、『堂古遺跡・下割遺跡VI・二反割遺跡II』[飯坂・山崎ほか前掲]を改変して引用した。

1 グリッドの設定 (第6図)

グリッドは2010年度下割遺跡の調査時に堂古遺跡を含めて設定している[石川・山下ほか2012]。グリッド方向は、国家座標軸(日本測地系)と一致する。グリッドは大小2種類あり、大グリッドは10m四方を単位とし、小グリッドはそれを2m四方に25等分したものである。大グリッドの名称は北東隅の杭を基準に東西方向(東→西)を算用数字、南北方向(北→南)をアルファベットとし、両者の組合せで表示している。また、小グリッドは1～25の算用数字で表し、北東隅を1、南西隅を25とした。グリッド表記は「715」のように呼称した。グリッド杭の座標値(世界測地系、東日本大震災後の補正値)は71杭(X=125900.514, Y=-16040.310)、13L杭(X=125870.514, Y=-16100.310)である。

2 基本層序 (第6図)

堂古遺跡は、飯田川によって形成された自然堤防上に立地する。微地形は、飯田川に近い北東側から南西側に向かって高くなるが、11～13H・I周辺を境に南西側に向かって再び低くなる。(図版2) 標高は13.3m～14.5mである。調査範囲は昭和50年代まで畠として利用されており、遺物包含層は失われ、遺構検出面(Ⅲ層)まで当時の畠の痕跡が残る。北東側は4・5列に位置する水路を掘削した時の発生土が旧表土(Ⅱ層)上に20～80cm盛られていた。古墳時代の土師器が出土したVI層下面(VⅦ・VⅧ層上面)の微地形は北東側から南西側に向かい徐々に低くなり、標高は13.2m～14.1m程度である。VI層は第6図⑦～Aを結ぶラインの南西側に堆積し、隣接する下割遺跡にも延びる。自然堤防背後の地形の低いところに堆積している状況が見て取れる。出土した土師器も摩耗しており、接合する破片は非常に少ない。

I層: 黒褐色粘質土(10YR3/2)粘性が強く、しまりは無い。腐葉土。現表土である。

Ⅱ層: 暗オリーブ褐色粘質土(2.5Y3/3)粘性が強く、しまりは無い。旧表土である。

Ⅲ層: オリーブ褐色粘質土(2.5Y4/6)粘性は強いがしまりは弱い。遺構検出面である。古代の遺物が少量出土した。

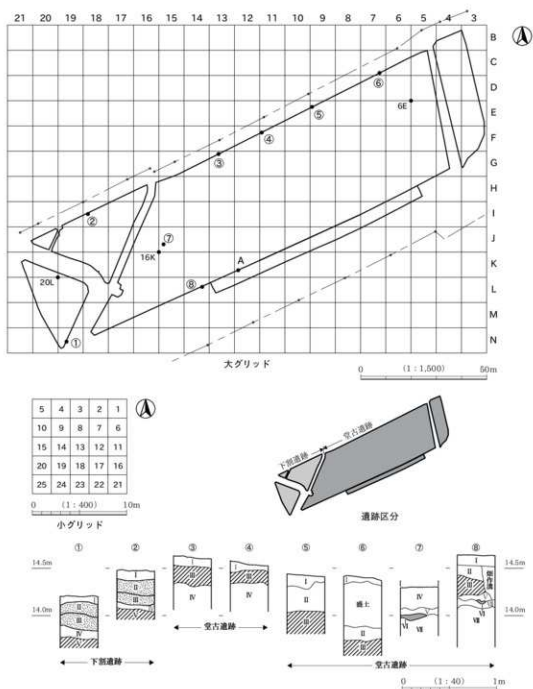
Ⅳ層: 褐色粘質土(10YR4/4)粘性が強いが、しまりは弱い。

V層: 暗褐色粘質土(10YR3/3)粘性・しまり共に強い。

VI層: 黒褐色粘質土(2.5Y3/1)粘性・しまり共に強い。灰色粘質土をまばらに含む。古墳時代の土師器が出土した。下割遺跡2003年度調査IX1層に相当する可能性がある。

VⅦ層: 黄灰色粘質土(2.5Y4/1)粘性は中程度でしまりは強い。暗褐色粘質土をまばらに含む。

VⅧ層: 黄褐色粘質土(2.5Y5/6)粘性は強く、しまりは中程度である。灰白色粘質土をまばらに含む。



第6図 グリッド設定図・基本層序図

第IV章 遺 構

1 記述の方法と形状の分類 (第7図)

遺構の個別説明は、主要な遺構と重要な遺構について本文・個別図・遺構個別写真・遺構観察表を用いて行う。それ以外の遺構は全体図と分割図に掲載している。遺構種別は略号を用い、井戸を「SE」、溝を「SD」、土坑を「SK」、ピットを「P」と表示した。遺構番号は、時代・種別・グリッドに関わらず調査順に通し番号とし、遺構略号の後に付した。2021年度調査分は遺構略号の後に「21」をつけ、2014・2015年度調査分と区別した。平面形態・断面形態などの表記は、和泉A遺跡の分類〔加藤・荒川1999〕を参考に(第7図)、当てはまらないものは適切な表現を記載した。規模や深さは基本的に検出面での計測値である。埋土の色調はおおむね黒色～オリーブ褐色を「黒色系」、褐色～黄褐色を「褐色系」、褐色～青灰色を「灰色系」と呼称する。事実記載の新旧関係は、基本的に直接の切り合いによる新旧を記述している。遺構出土遺物は層位や出土状況を記述しているが、層位の記述がないものは埋土からの出土である。

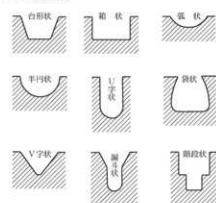
平面形態の分類



平面形態

円形	長径が短径の1.2倍以上のもの
楕円形	長径が短径の1.2倍以上のもの
方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの
長方形	長軸が短軸の1.2倍以上のもの
不整形	四角で一定の平面形を持たないもの

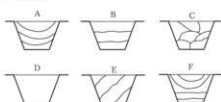
断面形態の分類



断面形態

台形状	底部に平面面をもち、緩やか～急角度に立ち上がるもの
箱状	底部に平面面をもち、ほぼ垂直に立ち上がるもの
皿状	底部に平面面をもたない皿状で、緩やかに立ち上がるもの
半円状	底部に平面面をもたない碗状で、急角度に立ち上がるもの
U字状	縁面の長径よりも深さの値が大きく、ほぼ垂直に立ち上がるもの
陥状	縁面の径よりも底部の径が大きく、内傾して立ち上がるもの
V字状	点的な底部をもち、急角度に立ち上がるもの
漏斗状	下部がU字状、上部がV字状の二段構造からなるもの
階段状	階段状の立ち上がりをもつもの

堆積状況



堆積状況

レンズ状	複数層がレンズ状に堆積する。
水 平	複数層が水平に堆積する。
ブロック状	ブロック状に堆積する。
単 層	覆土が単一層のもの
斜 位	斜めに堆積するもの
水平レンズ	覆土下位は水平、上位はレンズ状に堆積する。

第7図 遺構平面形態・断面形態の分類と堆積状況図

2 遺構各説

遺跡は飯田川左岸の自然堤防上に立地する。検出した遺構は近・現代の耕作の影響はあるものの比較的良好であり、遺構は全てⅢ層下面で検出した。今回の調査で確認された遺構は井戸 17 基、溝 6 条、土坑 3 基、ビット 69 基である。遺構からは、古代の遺物のみが出土する場合、古代と中世の遺物が出土する場合、中世の遺物のみが出土する場合、古代から近世の遺物が出土する場合、遺物が出土しない場合などがあるが、遺構埋土が黒色系やⅢ・Ⅳ層由来の褐色系で共通することから、遺構の時期はほぼ同じ、大半が中世と判断した。時期の詳細は埋土が共通する上、形態上の差異もほとんど認められないことから不明のものが多いが、2014・2015 年度の調査成果から大半は SD510B 段階（14～15 世紀）に帰属するものと考えられる。

遺構分布については 12L・13L 付近に遺構が集中し、8J・6H・6I 付近にやや遺構が集中する傾向が確認できる。また、7I・8I・9J・10J・10K・11K・12K 周辺に遺構の希薄な範囲が存在する。このうち区画溝と考える SD510、SD318、SD328、SD366 周辺は遺構が少ない傾向が確認できる。

P21-001 が古代の遺構で、そのほかはおおむね中世の遺構と考えられることから、遺構の種別 (SE→SD→SK→P) ごと、遺構番号順に記述していく。

A 井戸

2014・2015 年度の調査成果から、井戸は深いものが多いと予想されたので、人力での掘削は深さ約 1m までとし、それ以下は重機を使用し、断削りを行い遺物の確認や断面の記録を適宜行ったが、想定より深い井戸が多く一部の井戸は安全上の観点から重機で埋土を上げ遺物確認のみを行った。断ち削りは基本的に、上部調査時のセクションポイントの方向に合わせ行ったが、SE21-028 については上部のセクションポイントとは反対側から断ち削りを行った。そのような井戸の下部断面図は左右反転して作成したが、写真は左右反対で撮影している。なお、断ち削りや遺物確認のみを行った井戸の下端などは平面図に反映できていない。

井戸は 17 基検出した。いずれも井戸側などの痕跡は確認できず、素掘りの井戸と考えられる。基本的な埋土はしまりがあり黄褐色土粘質土を含む、暗褐色～黒褐色系粘質土とⅢ・Ⅳ層に由来する褐色系・灰色系埋土で人為的に埋戻されたと考えられる。壁面の中位や下位は崩落しているものもみられるが、原形を保つものもある (SE21-004、SE21-013、SE21-033、SE21-059、SE21-061、SE21-055)。同じ場所で掘り直したことが確実な井戸は 2 基確認できる (SE21-028、SE21-085)。

SE21-004 (図版 5・16)

5H20・6H16・21グリッドに位置する。平面形は円形で断面形は袋状に近く、壁面の崩落はなく原形を保つ。規模は長軸 0.98cm、短軸 0.96cm、深さ 1.74m である。埋土は 5 層に分層でき、下位は水平堆積、上位は斜位堆積する。褐色粘質土を含む、ぶい黄褐色粘質土～暗褐色粘質土が堆積する。遺物は珠洲焼、土師器片が出土している。

SE21-009 (図版 5)

6H24 グリッドに位置する。南西部が調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形は楕円形と推

定でき、断面形は深さ1m以上は重機で埋土を上げ遺物取上のみ行つたため確認できなかった。規模は長軸0.79m、短軸0.76m以上、深さ0.87m以上である。埋土は上位で2層に分層でき、水平堆積する。灰黄褐色粘質土～にぶい黄褐色粘質土が堆積する。遺物は珠洲焼、須恵器、土師器片が出土している。

SE21-013 (図版5・16)

6I2グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は箱状に近く、壁面の崩落はなく原型を保つ。規模は長軸1.10m、短軸0.92、深さ1.29mである。埋土は4層に分層でき、上位・下位がレンズ状堆積、中位が水平堆積する。下位は暗褐色粘質土を含む浅黄橙粘質土が堆積し、上位は浅黄橙粘質土を含む暗褐色粘質土が堆積する。P21-060と重複し、新旧関係はP21-060を切る。遺物は珠洲焼、土師質土器皿(1)、土師器片が出土している。

SE21-018 (図版5・17)

6H25・6I5・7I1グリッドに位置する。平面形は不整形で断面形は袋状である。規模は長軸2.04m、短軸1.39m、深さ2.18m以上である。埋土は検出した範囲では9層に分層でき、水平、レンズ状に堆積する。上位はにぶい黄褐色土を主体とする粘土、粘質シルト、下位は灰色～緑灰粘質シルトが堆積する。遺物は陶器片、土師器片、曲物側板が出土している。

SE21-021 (図版5)

7I11・12・17グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は袋状に近く、壁面は崩落している。規模は長軸2.03m以上、短軸1.78m、深さ1.61mである。埋土は6層に分層でき上位と下位はレンズ状、中位はブロック状に堆積する。黒褐色粘質土が主体に堆積する。SD328と重複し、SD328を切る。遺物は青磁碗片(2)、須恵器、土師器片、石硯(37)が出土している。

SE21-028 (図版6・17)

7I15・20・8I11・16グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は深さ1m以上は重機で埋土を上げ遺物取上のみ行つたため確認できなかった。規模は長軸1.34m、短軸1.24m、深さ1.48m以上である。埋土は検出範囲で9層に分層でき、黄褐色粘質土～暗褐色粘質土が水平に堆積する。P21-027と重複し、新旧関係はP21-027に切られる。遺物は土師器片、砥石が出土している

SE21-033 (図版6・17)

8J10グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸1.55m、短軸1.50m以上、深さ1.78mである。埋土は9層に分層でき、壁面の崩落はなく原型を保つ。上位、下位共に斜位堆積である。黄褐色粘質土を含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は土師質土器皿(3)、土師質土器小皿(4)、珠洲焼片口鉢(5)、土師器片が出土している。

SE21-040 (図版6・18)

9J11・12グリッドに位置する。南側は調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形は円形と推定でき、断面形は下部が調査区外に延びるため不明である。上部は壁面の崩落はなく原形を保つ。規模は長軸0.90m、短軸0.35m以上、深さ1.43m以上である。

埋土は8層に分層でき、下位はレンズ状堆積、上位は水平堆積する。黄褐色粘質土ブロックを含む暗褐色粘質土が堆積する。遺物は土師器片が出土している。

SE21-055 (図版7・18)

12K19・24グリッドに位置する。平面形は円形で断面形は袋状である。規模は長軸0.67m以上、短軸0.58m、深さ2.21m以上である。壁面の崩落はなく原型を保つ。埋土は4層に分層でき、上部は暗褐色

色粘質土が水平堆積、下位は黒褐色粘土が堆積する。P21-083と重複し、P21-083に切られる。遺物は珠洲焼片、曲物底板(42)、長方形板(43・44)が出土している。

SE21-059 (図版6)

8J3・4・8・9グリッドに位置する。南側は調査区外に延び全容は不明であるが、平面形は楕円形と推定でき、断面形はU字状である。壁面の崩落はなく、原形を保つ。規模は長軸1.76m、短軸1.14m以上、深さ1.54mである。埋土は5層に分層でき、にぶい黄褐色粘質土へ暗褐色粘質土がレンズ状に堆積する。遺物は珠洲焼片口鉢口縁部(6)、土師器、須恵器片が出土している。

SE21-061 (図版7・18)

13K21・22・13L1・2グリッドに位置する。平面形は円形で断面形は袋状である。規模は長軸1.15m、短軸1.00m、深さ2.41mである。壁面の崩落はなく原型を保つ。検出した範囲では埋土は8層に分層でき、暗褐色土がレンズ状に堆積する。遺物は珠洲焼片口鉢口縁部(7)、底部(8)、砥石(39)、曲物底板(45・46)が出土している。

SE21-063 (図版7・18・19)

13L3・4グリッドに位置する。平面形は楕円形で、断面形は深さ1m以上は重機で埋土を上げ遺物取上のみ行ったため確認できなかった。規模は長軸1.30m、短軸1.04m、深さ0.95m以上である。埋土は暗褐色粘質土がレンズ状に堆積する。遺物は青磁、珠洲焼片口鉢底部(9)、須恵器片、鎌柄(47)が出土している。

SE21-064 (図版7・19)

13L7グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は深さ1m以上は重機で埋土を上げ遺物取上のみ行ったため確認できなかった。規模は長軸1.13m、短軸1.04m、深さ0.83m以上である。埋土は暗褐色～黒褐色土がレンズ状に堆積する。陶器、青磁、土師器片、砥石(39)が出土している。

SE21-069 (図版7・19)

7I25・8I21グリッドに位置する。平面形は円形と推定でき断面形はU字状である。規模は長軸1.96m、短軸1.64m以上、深さ1.60m以上である。埋土は9層に分層できブロック状に堆積する。P21-029と重複し、P21-029に切られる。遺物は珠洲焼片口鉢(11)、珠洲焼壺(12)、須恵器杯蓋(10)、土師器片が出土している。

SE21-085 (図版8・19・20)

10J11・12・16・17グリッドに位置する。平面形は不整形で断面形は半円状に近い。規模は長軸2.86m以上、短軸2.61m、深さ2.01mである。埋土は9層に分層でき、一度壁面が崩落し再度掘り直している。掘り直した際の底面が8層である。新旧関係はSD328と重複し、SD328を切る。遺物は白磁(13)、珠洲焼甕体部片、土師器無台碗底部片、土師器片、須恵器片、杯底部、元符通寶(49)、聖宋元寶(50)が出土している。

SE21-086 (図版8・20)

9J15・10J11グリッドに位置する。北側は調査区外に延びるため全容は不明であるが、平面形は円形と推定でき断面形は半円状である。規模は長軸2.18m、短軸1.46m、深さ1.26mである。埋土は5層に分層でき暗褐色粘質土～黒褐色粘質土がレンズ状に堆積する。新旧関係はSD318と重複し、SD318を切る。遺物は珠洲焼片口鉢口縁部、体部片、土師質土器皿(14)、須恵器甕体部片が出土している。

B 溝

溝は6条検出し、そのうちSD510・SD318・SD328・SD366の4条は2014・2015年度調査区から連続する溝であり、形態から区画溝と考えられる。SD318・SD328・SD366は北西端でL字形の屈曲が確認でき方形の区画溝と推定できる。

SD318 (図版3・4・20・21)

6I・7I・10J・10Kグリッドに位置する。長軸方向は6I・7IでN-78°-W、10J・10KでN-14°-Eである。平面形は直線状、断面形は6I・7Iで台形状、10J・10Kで箱状である。規模は6I・7Iで長さ7.08m以上、幅0.96～1.03m、深さ0.46m、10J・10Kで長さ4.48m以上、幅0.84～1.20m、深さ0.22mである。2014年度調査区から連続する溝である。埋土は6I・7Iで3層に10J・10Kで2層に分層でき、いずれもレンズ状に堆積する。6I・7Iでは黄褐色粘質土を含む褐色粘質土が、10J・10Kでは黄褐色粘質土を含む黒色～暗褐色粘質土が堆積する。南東端で溝が途切れ、それ以降は調査区外のため未確認であるが形状から方形の区画溝だと考えられる。新旧関係SE21-085、SE21-086と重複し、SE21-085、SE21-086に切られる。遺物は瀬戸美濃焼緑軸小皿(20)、珠洲焼壺片(18・19)・壺体部片、須恵器有台杯(16・17)、土師器片、磁石が出土している。

SD328 (図版3・4・20・21)

7I・9J・10Jグリッドに位置する。長軸方向は7IでN-76°-W、9JでN-14°-Eである。平面形は直線状、断面形は7Iで台形状、9J・10Jで弧状である。規模は7Iで長さ5.14m以上、幅0.58～0.74m、深さ0.40m、9J・10Jで長さ5.78m以上、幅0.46～0.59m、深さ0.12mである。2014年度調査区から連続する溝である。埋土は7Iで2層に10Jで1層に分層できる。7I・9J・10J共に黄褐色粘質土を含む暗褐色粘質土がレンズ状に堆積する。調査区外に延びるため全容は不明であるが形状から方形の区画溝と考えられる。新旧関係はP21-042、SE21-021と重複し、P21-042、SE21-021を切る。遺物は珠洲焼、須恵器、土師器片が出土している。

SD366 (図版3・20・21)

9Jグリッドに位置する。長軸方向はN-18°-Eである。平面形は直線状、断面形は弧状である。規模は長さ5.98m以上、幅0.92～1.12m、深さ0.31m。埋土は2層に分層でき、黒褐色粘質土～暗褐色粘質土がレンズ状に堆積する。2014年度調査区から連続する溝である。調査区外に延びるため全容は不明であるが形状から方形の区画溝と考えられる。新旧関係はSD21-041と重複しSD21-041を切る。遺物は珠洲焼壺体部片、土師器片、珠洲焼転用磁石(21)が出土している。

SD510 (図版3・21)

11K・12Kグリッドに位置する。長軸方向はN-38°-Wである。平面形は直線状、断面形は台形状である。規模は長さ4.58m以上、幅5.09～5.92m、深さ1.41mである。2014年度調査区から連続する溝である。埋土は褐色系・暗褐色系・黒褐色系土がレンズ状に堆積する。2014年度調査では2時期の段階が想定されている。本年度調査でも、1層～12層を新段階(SD510B)、11層～14層を古段階(SD510A)に大別できることが確認できた。前回調査では不明瞭であったが、今回調査では古段階(SD510A)においても北西にやや傾斜することが確認できた。流水の痕跡が確認できず、北東側と南西側で遺構密度が異なることから、区画溝と考えられる。遺物は常滑焼小甕片(29)、瀬戸美濃焼碗(30)、青磁、珠洲焼片口鉢(27)、壺(28)、珠洲焼片、土師器小甕(22)、土師器片、須恵器蓋杯(24)、無台杯(23)・有台杯(25)、

壺類 (26)、磁石 (40)、銭貨 (48)、鉄滓が出土している。

SD21-041 (図版3)

9J グリッドに位置する。長軸方向は N-78° -W である。平面形は直線状、断面形は弧状である。規模は長さ 4.77m 以上、幅 0.25 ~ 0.36m、深さ 0.10m である。埋土は単層で黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。SD366 と重複し、新旧関係は SD366 に切られる。遺物は土師器片が出土している。

SD21-046 (図版4・21)

10J・10K グリッドに位置する。長軸方向は N-81° -W である。平面形は直線状、断面形は半円状である。規模は長さ 1.89m、幅 0.59 ~ 0.72m、深さ 0.39m である。埋土は3層に分層でき、黒褐色～暗褐色粘質土がレンズ状に堆積する。遺物は珠洲焼、須恵器片が出土している。

C 土坑・ピット

土坑3基、ピット69基を検出した。ピットには柱穴が多数含まれるが、調査範囲が限られ建物の検出は困難であった。

SK21-002 (図版9・22)

5H19・20 グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は台形状である。規模は長軸 1.25m、短軸 0.61、深さ 0.36m である。埋土は単層で、褐色粘質土をブロック状に含む、にぶい黄褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

SK21-003 (図版9・22)

5H20・25・6H16・21 グリッドに位置する。平面形は円形で断面形は台形状である。規模は長軸 1.34m、短軸 1.14m、深さ 0.23m である。埋土は2層に分層でき、褐色粘質土をブロック状に含む、にぶい黄褐色粘質土が堆積する。遺物は土師器、須恵器、珠洲焼、石硯が出土している。

SK21-024 (図版9)

7I18 グリッドに位置する。平面形は楕円形と推定でき、断面形は半円状である。規模は長軸 1.02m 以上、短軸 0.88、深さ 0.46m である。埋土は単層で、黄褐色粘質土をブロック状に含む、黒褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-001 (図版9・22)

5H18・19 グリッドに位置する。平面形は円形で、断面形は弧状である。規模は長軸 0.57m、短軸 0.50m、深さ 0.04m である。埋土は単層で、にぶい黄褐色粘質土が堆積する。遺物は土師器長胴甕 (31) が1層から出土している。

P21-007 (図版9・22)

6H23 グリッドに位置する。平面形は円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸 0.35m、短軸 0.34m、深さ 0.48m である。埋土は2層に分層でき、褐色粘質土を含む、にぶい黄褐色～灰黄褐色粘質土が堆積する。2層は柱痕である。遺物は出土していない。

P21-008 (図版9)

6H23 グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸 0.36m、短軸 0.30m、深さ 0.52m である。埋土は2層に分層でき、にぶい黄褐色～灰黄褐色粘質土が堆積する。2層は柱痕である。遺物は出土していない。

P21-010 (図版9)

6H22・23グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸0.42m、短軸0.33m、深さ0.59mである。埋土は2層に分層でき、褐色粘質土ブロックを含む、にぶい黄褐色～灰黄褐色粘質土が堆積する。2層は柱痕である。遺物は出土していない。

P21-012 (図版9)

6H24グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.31m、短軸0.29m、深さ0.32mである。埋土は単層で褐色粘質土ブロックを含む、にぶい黄褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-016 (図版9・22)

6I10グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.54m、短軸0.51m、深さ0.34mである。埋土は単層で褐色粘質土ブロックを含む、にぶい黄褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-019 (図版9)

6H24グリッドに位置する。平面形は円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸0.39m、短軸0.36m、深さ0.60mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。2層は柱痕である。遺物は出土していない。

P21-027 (図版9)

7I15・8I11グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.38m、短軸0.32m、深さ0.44mである。埋土は3層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。新旧関係はSE21-028と重複し、SE21-028を切る。遺物は出土していない。

P21-029 (図版9)

8I21グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.46m、短軸0.34m、深さ0.36mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、黒褐色粘質土が堆積する。新旧関係はSE21-069と重複し、SE21-069を切る。遺物は出土していない。

P21-031 (図版9・23)

8I22グリッドに位置する。平面形は円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸0.45m、短軸0.44m、深さ0.64mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、褐色～暗褐色粘質土が堆積する。2層は柱痕である。遺物は珠洲焼片が出土している。

P21-032 (図版10)

10K5グリッドに位置する。平面形は不明で断面形はU字状である。規模は長軸0.36m、短軸0.16m以上、深さ0.26mである。埋土は単層で黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。新旧関係はP21-049と重複しP21-049に切られる。遺物は出土していない。

P21-034 (図版9)

8J4グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.45m、短軸0.44m、深さ0.39mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-038 (図版9)

9I1グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.32m、短軸0.30m、

深さ 0.56m である。埋土は単層で黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-043 (図版 9)

10J17 グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はV字状である。規模は長軸 0.60m、短軸 0.53m、深さ 0.46m である。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-045 (図版 10)

10J24 グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形はU字状である。規模は長軸 0.34m、短軸 0.32m、深さ 0.46m である。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-049 (図版 10)

10K5 グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形はV字状である。規模は長軸 0.58m、短軸 0.48m、深さ 0.36m である。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-051 (図版 10)

10J25 グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形はV字状である。規模は長軸 0.64m、短軸 0.43m、深さ 0.29m である。埋土は単層で黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。新旧関係は P21-052 と重複し P21-052 を切る。遺物は出土していない。

P21-052 (図版 10)

10J25 グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はV字状である。規模は長軸 0.32m、短軸 0.31m、深さ 0.42m である。埋土は単層で黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。新旧関係は P21-051 と重複し P21-051 に切られる。遺物は出土していない。

P21-053 (図版 10)

8J3・4 グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸 0.68m、短軸 0.61m、深さ 0.65m である。埋土は3層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、褐色～暗褐色粘質土が堆積する。遺物は土師器片が出土している。

P21-056 (図版 10)

12K24 グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形はU字状である。規模は長軸 0.40m、短軸 0.32m、深さ 0.48m である。埋土は単層で暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-057 (図版 10)

12L4 グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸 0.32m、短軸 0.29m、深さ 0.46m である。埋土は単層で暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-058 (図版 10)

12L5 グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸 0.97m、短軸 0.62m、深さ 0.75m である。埋土は単層で黒褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-062 (図版 10・23)

13L2 グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸 0.46m、短軸 0.35m、深さ 0.46m である。埋土は3層に分層でき黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺

物は出土していない。

P21-065 (図版10・23)

13L1・2・5・6グリッドに位置する。平面形は円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸0.59m、短軸0.51m、深さ0.84mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。2層は柱痕である。遺物は出土していない。

P21-068 (図版10)

13L14グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.54m、短軸0.41m、深さ0.53mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-070 (図版10・23)

13L3・7・8グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は漏斗状である。規模は長軸0.64m、短軸0.50m、深さ0.77mである。埋土は3層に分層でき、暗褐色粘質土が堆積する。2・3層は柱痕である。遺物は珠洲焼片が出土している。

P21-071 (図版10)

13L7・8グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.50m、短軸0.47m、深さ0.60mである。埋土は単層で黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は珠洲焼片が出土している。

P21-072 (図版10・23)

13L2グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.42m、短軸0.35m、深さ0.58mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-075 (図版10)

13L13グリッドに位置する。平面形は不明で断面形はU字状である。規模は長軸0.39m以上、短軸0.26m、深さ0.42mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、にぶい黄褐色～暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-076 (図版10)

13L8グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は弧状である。規模は長軸0.54m、短軸0.38m、深さ0.28mである。埋土は単層で黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-077 (図版10)

13L1グリッドに位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.33m、短軸0.31m、深さ0.48mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、にぶい黄褐色～黒褐色粘質土が堆積する。1層は柱痕である。遺物は須恵器壺肩部片が出土している。

P21-083 (図版7)

12K19・24グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形は箱状である。規模は長軸0.29m、短軸0.28m、深さ0.29mである。埋土は単層で黄褐色粘質土ブロックを含む、暗褐色粘質土が堆積する。新旧関係はSE21-055と重複し、SE21-055を切る。遺物は出土していない。

P21-084 (図版10)

13L1グリッドに位置する。平面形は楕円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.42m、短軸0.34m、深さ0.57mである。埋土は3層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、黒～暗褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

P21-089 (図版10・23)

13L7・12にグリッド位置する。平面形は円形で断面形はU字状である。規模は長軸0.40m、短軸0.40m、深さ0.80mである。埋土は2層に分層でき、黄褐色粘質土ブロックを含む、黒～暗褐色粘質土が堆積する。2層は柱痕である。遺物は出土していない。

第V章 遺 物

1 概 要 (第2・3表)

土器類の前回報告〔飯坂・山崎^{ほか}前掲〕の重量組成比は、古墳時代5%弱、古代30%弱、中世55%強、近世1%強、不明10%強となっている。今回の調査では古墳時代の土器は出土していないが、組成比は概ね近い比率である。分布域は遺構密度に比例する。ほとんどの土器類が残存率1/3以下の小片で完形は出土していない。古代の土器はほとんどが中世の遺構に混入する。中世の遺物は珠洲焼が大半を占め、土師質土器と珠洲焼以外の陶磁器がほぼ同量で出土した。珠洲焼の組成は6割が調理具である片口鉢で、貯蔵具である壺甕類は4割である。陶磁器は越前焼、瀬戸焼のほかに輸入陶磁器の青磁、青白磁、白磁、天目が出土するがいずれも細片である。近世陶磁器は表土、包含層から出土しており、ほとんどが肥前産である。石製品は砥石、硯が遺構内から出土している。木製品は曲物、板材、鎌柄が井戸の下部または底部付近のみから出土している。金属製品は銭貨が遺構内から出土しているがすべて遺存状態は悪い。また図示していないが遺構内外から、鉄滓、鍛冶滓、鑄の羽口が出土している。

土器・陶磁器の時期・器種分類については「古代の土師器・須恵器は春日真実氏の論考〔春日1999〕、中世の土師質土器は水澤幸一氏の論考〔水澤2005〕、珠洲焼は吉岡康暢氏・加賀真樹氏の論考〔吉岡1994、加賀1997〕、瀬戸美濃焼は藤澤良祐氏の論考〔藤澤2002・2008〕、越前焼は岩田隆氏・木村孝一郎氏の論考〔岩田1997、木村2008〕、輸入陶磁器は主に大宰府条坊跡での調査成果〔山本^{ほか}2000〕を参考にした。古代・中世の暦年代は第2・3表を目安〔飯坂・山崎^{ほか}前掲〕とした。

2 土器・陶磁器 (図版11・12・24・25)

A 遺 構 出 土 (1～31)

SE21-013 (1)

1は手づくね成形の土師質土器の皿で、残存率は約1/8である。全体的に摩耗が著しい。13世紀前半頃である。

SE21-021 (2)

2は輸入陶磁器の青磁碗である。外面に連弁文が確認できる。細片のため、口径は復元できない。15世紀前半の所産である。

SE21-033 (3～5)

3はロクロ成形の土師質土器の皿である。残存率は約1/4である。底部から直線的に外傾して立ち上がり口縁端部は細くなる。全体的に摩耗が著しい。底部切り離しは糸切か。4はロクロ成形の土師質土器

時期	暦年代
古代Ⅰ期	6世紀末～7世紀前期
古代Ⅱ期	7世紀後葉～7世紀末
古代Ⅲ期	8世紀初葉～8世紀前期
古代Ⅳ期	8世紀後葉～9世紀初葉
古代Ⅴ期	9世紀前期～9世紀中葉
古代Ⅵ期	9世紀後半～10世紀初葉前後

第2表 古代の暦年代
(春日1999を改定)

時期	暦年代
珠洲Ⅰ期	12世紀中葉～
珠洲Ⅱ期	1160～1170年代
珠洲Ⅲ期	1180～1190年代
珠洲Ⅳ期Ⅰ	13世紀第1四半期
珠洲Ⅳ期Ⅱ	13世紀第2四半期
珠洲Ⅳ期	13世紀中葉～1270年代
珠洲Ⅴ期Ⅰ	1280～1310年代
珠洲Ⅴ期Ⅱ	1320～1350年代
珠洲Ⅴ期Ⅲ	1360～1370年代
珠洲Ⅴ期	1380～1440年代
珠洲Ⅵ期	1450～1470年代

第3表 珠洲焼の暦年代
(加賀1997を改定)

の皿である。残存率は約3/4である。内外面を丁寧なロクロナデで仕上げた。3・4はともに15世紀の所産である。5は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。口縁部内面に藤目波状文を施す。現状で4条の卸目が確認できる。細片のため、口径は復元できない。珠洲Ⅴ期である。

SE21-059 (6)

6は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。現状で7条の卸目が確認できる。細片のため、口径は復元できない。珠洲Ⅳ期である。

SE21-061 (7・8)

7は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。現状で卸目は確認できない。細片のため、口径は復元できない。珠洲Ⅴ期である。8は珠洲焼の片口鉢の底部である。内面は使用により摩耗している。11条1単位の卸目が確認できる。外面には棒状工具によるナデと指頭圧痕が確認できる。珠洲Ⅳ期である。

SE21-063 (9)

19は珠洲焼の片口鉢の底部である。底部切り離しは静止糸切である。11条1単位の卸目が確認できる。珠洲Ⅳ期である。

SE21-069 (10～12)

10は須恵器の杯蓋の擴部で扁平な宝珠型である。天井部も扁平で降灰がみられる。時期は古代Ⅲ～Ⅳ期頃である。在地の東頸城丘陵窯跡の所産と考えられる。11は珠洲焼片口鉢の口縁部である。現状7条以上の卸目が確認できる。時期は珠洲Ⅲ期である。12は珠洲焼の壺R種の口縁部で時期は珠洲Ⅳ期である。器壁は1.0cm未満と薄い。

SE21-085 (13)

13は輸入陶磁器の白磁皿の体部片である。軸は灰白色である。内面に圈線がめぐるため底部に近い部分と考えられる。12世紀頃の所産である。

SE21-086 (14)

14は手づくね成形の土師質土器の皿で、残存率は1/6程度である。全体的に摩耗が著しい。13世紀後半頃のものである。

SE313 (15)

15は珠洲焼の壺T種の体部片である。外面に連続する菱形(四方禪文)の幾何学状文のタタキが施される。内面は工具によるナデと指頭圧痕が確認できる。珠洲Ⅱ期頃のものである。同一個体の破片が前回調査の同一井戸から出土しているが接合しなかった。

SD318 (16～20)

16は須恵器の有台杯の底部で残存率は約1/4である。高台は貧弱で底部は歪んでいる。古代Ⅳ期である。17も須恵器の有台杯の底部で残存率は1/2である。内面には褐色の柿渋のような染みが遺る。古代Ⅳ2～3期である。16・17は東頸城丘陵窯跡の所産である。18は珠洲焼の壺R種の底部で残存率は1/10である。外面にスカが付着する。珠洲Ⅳ2期である。19は珠洲焼の壺T種の底部で残存率は約1/4である。珠洲Ⅳ1期である。20は瀬戸美濃焼の緑軸小皿で残存率は1/5である。口縁部内面にのみ施軸。軸は灰オリーブ色である。時期は15世紀前半である。

SD366 (21)

21は珠洲焼の囊の体部片を転用した砥石である。3辺の破面のうち1面のみを使用している。内面にあて具痕が確認できる。珠洲Ⅲ期以前のものである。

SD510 (22～30)

22は土師器の小甕の口縁部である。口縁部は外反、体部は下方にのびる。全体的に摩耗している。時期は古代Ⅰ期である。23は須恵器の無台杯の底部で残存率は約1/4である。時期は古代Ⅴ期である。佐渡小泊産である。24は須恵器の杯蓋で残存率は1/8である。復元口径は16.8cmと大ぶりである。天井部は摩耗している。口縁部の外面に重ね焼き痕が確認できる。古代Ⅳ2～3期頃である。東頸城丘陵窯跡の所産である。25は須恵器の有台杯の底部で残存率は約1/8である。古代Ⅲ期頃である。26は須恵器の高台付き底部で、長頸壺や広口壺などと考えられる。東頸城丘陵窯跡の所産である。27は珠洲焼の片口鉢底部で残存率は約1/3である。現状7条以上の卸目を確認するが使用による摩耗が顕著である。珠洲Ⅳ～Ⅴ期頃である。28は珠洲焼の壺底部で円盤状の所謂ベタ底である。静止糸切痕が確認できる。時期は14世紀である。29は常滑焼の小甕の口縁部である。立ち上がりは短い受口状となる。13世紀前半頃である。30は瀬戸美濃焼の所謂、大平碗の体部である。内外面に施軸するが外面の下方(底部付近)は無軸である。軸はオリブ黄色で、露胎部分は浅黄色である。時期は14世紀後半頃である。

P21-001 (31)

31は土師器の長胴甕で砲弾型である。口縁部は外反し、端部は外方につまみ出し面を成す。破片の接点は少ないが、同一個体と判断し図上で復元している。外面・頸部から体部上半をタテ方向のハケメ、体部下半をヘラケズリ、内面は頸部付近をカキメ、以下をタテ方向のハケメで調整する。時期は古代Ⅰ期である。

B 遺構外出土(32～36)

32は珠洲焼の甕の口縁部である。端部は外方へ大きく屈曲して端部はやや下方に下がる。外面は平行タタキ、内面には指頭圧痕が残る。破面にスガが付着する。時期は珠洲Ⅱ～Ⅲ期頃である。33は珠洲焼の片口鉢の口縁部である。器壁は0.8cm以下と薄い。卸目は確認できず捏鉢と考えられる。時期はⅢ期である。34は珠洲焼の片口鉢の底部で残存率は約1/8である。現状10条以上の卸目を確認する。器壁は2.8cmとかなり厚目である。時期は珠洲Ⅲ～Ⅳ期頃である。35は越前焼の甕の体部片である。外面に現状4×6目以上の格子文の押印が確認できる。肩部に近い部分と考えられる。時期は14世紀頃である。36は輸入陶磁器・青白磁の口禿碗である。内面に型押し文様が確認できる。南宋の13世紀の所産である。

3 石 製 品 (図版13・26)

A 遺構出土(37～40)

SE21-021 (37)

37は石硯で1/2以上欠失する。全体的に雑なつくりである。四角を欠失しており、未製品または意図的に角を欠き、転用した可能性もある。

SE21-061 (38)

38は砥石で中砥が仕上げ砥である。形状は角柱状で片端部を欠失する。40・41に比べてやや大ぶりの砥石である。表裏左右側面と端部が使用面となる。石材の産地は在地とみられる。

SE21-064 (39)

39は砥石で仕上げ砥である。4方を欠失する。石材の産地は京都・鴨滝産である。鴨滝産砥石は2点出

上しているが1点のみ図化した。

SD510 (40)

40は砥石で中砥か仕上げ砥である。形状は角柱状で片端部を欠失する。表裏左右側面と端部が使用面となる。線状痕が確認できる。石材の産地は在地産とみられる。

B 遺構外出土 (41)

41は砥石で中砥か仕上げ砥である。形状は角柱状で片端部を欠失する。全体的に欠が多い。表裏左右側面と端部が使用面となる。石材の産地は群馬・上野か。

4 木製品 (図版13・26)

A 遺構出土

SE21-055 (42～44)

42は曲物底板で約3/4を欠失する。外面に漆の塗膜が確認できる。側面に2か所、木釘が残る。約1/3は外方へ40°位の角度で折れ曲がる。43は長方形の板である。3辺に木釘が残る。木釘が確認できない一辺の1/3を半円状に焼失する。片面に多くの線状痕が確認できる。木取りは板目である。44も長方形の板である。短辺の片側面に面取りがあることから長辺の2方向が欠失していると考えられる。木取りは板目である。線状痕は確認できない。

SE21-061 (45・46)

45は曲物底板の転用材で約3/4を欠失する。側面の一部を抉る。木釘穴は4か所確認でき、内1か所には木釘が遺存する。また、1か所は抉られた部分に斜め方向に木釘穴を穿孔する。46は曲物底板である。約1/2を欠失しており、さらに割れている。全体的に腐食が激しい。木釘穴は確認できない。

SE21-063 (47)

47は鎌の柄部で刃部の基部がわずかに遺存する。柄部の長さ32.8cmであるが基部を含めると残存長33.4cmとなる。断面は楕円形である。基部は柄部内に約10cm挟み込まれており、3か所を釘(金属)で固定されている。木取りは板目である。

5 金属製品 (図版12・25)

A 遺構出土

SE21-085 (49・50)

49は円形方孔銭の「元符通寶」(行書)である。割れ、反り、剥がれ、腐食と状態は劣悪である。「元符通寶」の初鋳年は1098年(元符元年)である。50は円形方孔銭の「聖宋元寶」(真書)である。土塊に付着しており分離は困難であり、図示していない。初鋳年は1101年(建中靖国元年)である。

SD510 (48)

48は円形方孔銭である。7枚が踏で固着していたが、1枚が剥がれている。孔には紐が遺存している。「開元通寶」の1枚以外は銭種不明である。

第VI章 自然科学分析

1 樹種同定と種実同定

A はじめに

堂古遺跡（上越市大字米岡字堂古）は中世の集落を中心とした遺跡で井戸や建物跡などの遺構が検出されている。本分析調査では遺構から検出された木製品の樹種や種実について検討するために、樹種同定、種実同定を実施する。

B 試料と方法

1) 試料

分析試料は、木製品5点、種実1袋である。遺物の詳細は、結果も含めてそれぞれの表に示す。

2) 分析方法

a 樹種同定

生材は、剃刀を用いて木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の切片を作成する。ガムクロラールで封入、光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 [1982]、Wheeler *ほか* [1998]、Richter *ほか* [2006] を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 [1991] や伊東 [1995・1996・1997・1998・1999] を参考にする。

b 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。同定は、現生標本や石川 [1994]、中山 *ほか* [2010]、鈴木 *ほか* [2018] 等を参考に実施する。結果は、部位・状態別の個数を一覧表で示し、各分類群の写真を添付する。また、種実遺体の大きさをデジタルノギスで計測し、結果を一覧表に併記する。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて保管する。

C 結果

1) 樹種同定

結果を第4表に示す。結果は針葉樹2種類（スギ、サワラ?）が同定された。以下に検出された種類の植物解剖学的所見を述べる。

・サワラ? (*Chamaecyparis pisifera*? (Sieb. et Zucc.) Endlicher)

ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～

報告No.	試料名	樹種	備考
42	SE21-055	歯物成板	サワラ? 写真
43	SE21-055	長方形板	スギ 写真
44	SE21-055	長方形板	サワラ?
45	SE21-061	歯物成板	サワラ?
47	SE21-063	鎌削	スギ

第4表 樹種同定結果

スギ型で、1分野に2個が多い(1~3個)。放射組織は単列、1~15細胞高。なお、ヒノキ属は解剖学的特徴から、ヒノキとサワラに区別できる【Noshiro 2011】。今回は、これを基準にサワラと同定したが、ヒノキとの中間的な特徴を持つ組織(分野壁孔の形状と割合)が存在するため、サワラ?とした。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2個が多い。放射組織は単列、1~10細胞高。

2) 種実同定

結果を第5表に示す。3個とも栽培植物のモモの核に同定された。以下、形態的特徴等を記す。なお、学名は佐竹¹⁾編【1989】に依拠した。

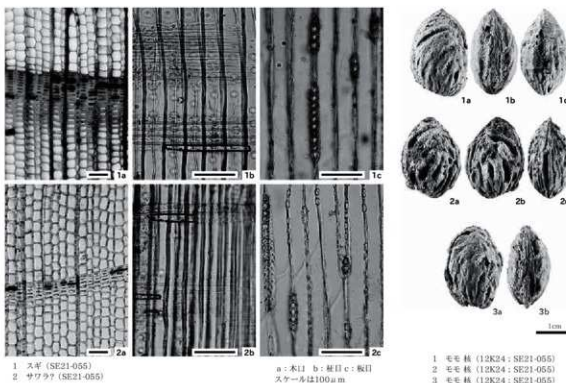
・モモ (*Prunus persica* Batsch)バラ科サクラ属

核(内果皮)は灰褐色、長さ2.4~2.7cm、幅1.7~1.8cm、厚さ1.4cmのやや扁平な楕円体。頂部は尖り、基部は切形で、中央部に湾入した臍がある。背面正中線に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。内面には種子1個が入る広卵状の窪みがある。核内に1個入る種子は、扁平な広卵状楕円体を呈し、表面はやや平滑で細く浅い縦筋状模様がある。出土核3個は

グリッド	遺構	種名	部位	状態	個数	枝番	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	備考
						1	2	3		
12K24	SE21-055	モモ	核	完形未測	3	1	26.50	17.48 +	14.06	背面欠損、頂部尖る
						2	24.40	18.34	13.80 +	表面摩耗、頂部やや尖る
						3	25.38 +	17.89 +	13.65 +	頂部・背面・表面摩耗

[注] 計測はデジタルノギスを使用し、欠損等は残存値に「+」で示す。

第5表 種実同定結果



第8図 木材・種実遺体

摩耗等により、頂部や背面、表面の一部が欠損している。

D 考 察

木製品の樹種はスギとサワラ?である。これらは、樹高の高い巨木になるため太くまっすぐな材が得やすい。また、水湿に強く軽軟で加工も容易な良材である。このため、建築材、施設材、器具材として多用される。県内遺跡の中世遺跡の事例を、伊東・山田編〔2012〕の木材データベースから検索すると、建築材や施設材の多くはスギで、次いでヒノキやサワラが使われる傾向にあり、本分析調査の組成と類似する。

井戸 SE21-055 より出土した種実遺体は、栽培植物のモモの核に同定された。果樹のモモは、中国原産で古くより日本に渡来した落葉小高木であり、果実が食用、薬用、祭祀等に、花が観賞用に利用される。近辺で栽培されたか、持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食料と示唆される。

引用文献

- Bronk RC. 2009 「Bayesian analysis of radiocarbon dates」『Radiocarbon』51 337-360
- 林 昭三 1991 『日本産木材顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
- 石川茂雄 1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 328p
- 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31 京都大学木質科学研究所 81-181
- 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32 京都大学木質科学研究所 66-176
- 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33 京都大学木質科学研究所 83-201
- 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34 京都大学木質科学研究所 30-166
- 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35 京都大学木質科学研究所 47-216
- 伊東隆夫・山田昌久(編) 2012 『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社 449p
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志 2010 『日本植物種子図鑑(2010年改訂版)』東北大学出版会 678p
- Noshiro Shuichi 2011 「Identification of Japanese species of Cupressaceae from wood structure」『Japanese Journal of Historical Botany』19 125-132
- Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughes K., Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon, J., Turney, C., Wacker, L., Adolphi, F., Buentgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S. 2020 「The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP)」『Radiocarbon』62 1-33
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006 『針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社 70p
[Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification]
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫編 1989 『日本の野生植物 木本Ⅰ』平凡社 321p
- Stuiver M. & Polach A.H. 1977 Radiocarbon 1977 「Discussion Reporting of ^{14}C Data. Radiocarbon」19 355-363
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 『図説木材組織』地球社 176p
- 鈴木甫夫・高橋 冬・安延尚文 2018 『草木の種子と果実・形態や大きさが一目でわかる 734 種 増補改訂・ネイチャーウォッチングガイドブック』誠文堂新光社 303p
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 『広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト』伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修) 海青社 122p [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]

第七章 ま と め

1 遺 構

今回の調査で確認された遺構は、井戸 17 基、溝 6 条、土坑 3 基、ピット 69 基である。古代の長副塚が出土した P21-001 を除く大半の遺構が SD510B 段階（14～15 世紀）に帰属すると考えられる。

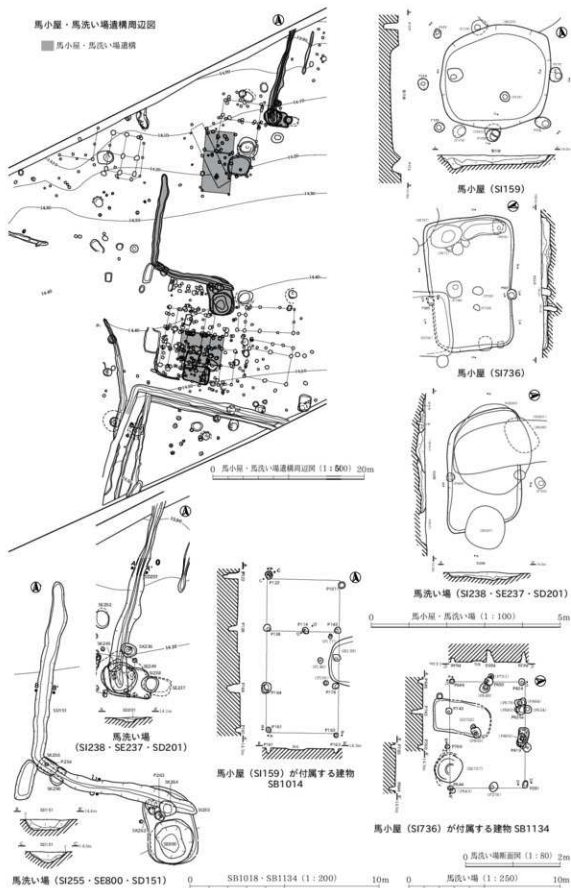
井戸と判断した遺構は、17 基あるが SD510 を境にして南西側の井戸は、深くなる傾向が確認できる。SD510 の底面標高は A-A' 地点で 12.32m であり、SD510 の東側に所在する井戸と比較しても、かなりの深度まで掘削されていることが分かる。恐らくは SD510 の掘削により地下水脈が分断され、南西部の井戸は北東部の井戸より深く掘削しないと湧水が起こらず、深く掘削する必要があったためではないかと考えられる。また南西部の井戸は、北東部の井戸に比べると径が小さいものが多い。これは地盤が軟弱なため径を大きくすると壁面が崩落しやすく、井戸を深く掘削するための工夫により、径を小さくしたと考えられる。また、井戸は上部より下部の径が大きい袋状の井戸が認められるが、これは湧水による浸食の影響もあるであろうが、前述の様に上部は壁面の崩落を防ぐために径を小さくしたが、湧水量は透水層と接する壁面の面積に比例することから、下部まで径を小さくしてしまうと、十分な湧水量が確保できないため下部の径を大きくし、十分な湧水の確保に努めた結果であると考えられる。

溝は 6 条検出し SD21-041、SD21-046 を除くほかの 4 条（SD318、SD328、SD366、SD510）は、区画溝と考えられる。SD318、SD328、SD366 は 2014 年度調査区から連続する溝であり、前回調査区と今回の調査区で検出された範囲から検討すると方形の区画溝であると考えられる。この方形の区画溝は東側と西側で深さ、断面形に差異があり、機能的な差異を反映している可能性が考えられる。SD510 も同様に区画溝だと考えられ、前回調査では〔飯坂・山崎³³前掲〕新田 2 時期が想定されている。今回調査でも時期的に差異はなく SD510A 段階（13 世紀）、SD510B（14～15 世紀）に大別でき 16 世紀に機能を停止し、17 世紀に最終的に埋め戻されたと考えられる。

柱穴と判断できるピットは多数確認できたが、調査範囲が限られ建物の検出は困難であった。しかしながら、SD510 の南東部では柱穴が多数存在し、こうした柱穴の存在から堀立柱建物が建てられていたものと考えられる。

本遺跡は井戸が多いのが特徴的であり、前回調査〔飯坂・山崎³³前掲〕でも指摘されている。これは地盤が脆弱であり壁面が崩落しやすく、崩落する度に何度も掘り直したことに起因すると考えられる。また、もう一つの要因として、2014・2015 年度調査で複数確認されている工房、倉庫、厩舎の可能性が指摘されている竅穴状遺構に馬小屋遺構が含まれ、馬の飼養に多量の水が必要とされたのではないかと推察し、篠崎が『馬小屋の考古学』〔篠崎 2010〕において提示した馬小屋の判断基準から検討をおこなった。その結果、竅穴状遺構 SI159、SI736 は馬小屋だと判断した。また、馬洗い場遺構と考えられる（SI238・SE237・SD201）、（SI255・SE800・SD151）が近くに所在することからも馬小屋であると判断できる。こうした馬の飼養状況から馬の飼養に多量の水が必要であり、井戸が多数必要であったと考えられる。

飯田川周辺における中世村落の様相として、山崎〔山崎 2017〕は堂古・下割・二反割遺跡の例から「中世村落の成立から衰退まで一貫して自然堤防上に集落が営まれ、居住に適していたことが分かるが、自然



第9図 馬小屋・馬洗い場遺構 平面断面図 (飯坂・山崎 2017 より一部改変の上引用)

堤防から外れ居住に適さない集落間の低地は生産域などに利用される。このように中世集落が一定の距離をとって点々と所在し、その間に生産域が展開する景観は現在の高田平野の景観にも通じる光景である。」としている。こうした光景に加え、本遺跡では馬小屋遺構が確認でき馬を飼育していたことが明らかになった。馬の飼養という観点から本遺跡について考えると自然堤防上に立地する本遺跡は、周辺に下割遺跡や清水田遺跡の例から水田・畠などの生産域が存在すると考えられる。周辺の水田で根刈りした、葉は馬小屋に運び込まれ、厩肥生産に用いられた。そこで生産された厩肥は耕作に用いられ収穫高の増加に貢献していたであろう。また収穫した農作物の運搬には馬が用いられたと考えられる。本遺跡はこうした飯田川周辺における中世農村集落の様相の一端を示しているといえるだろう。

2 遺 物

前回調査の報告〔飯坂・山崎の前期〕と併せて、図示した遺物を中心に簡単にまとめた。まず、土器・陶磁器類において、図示した遺物は、前回調査において91点、今回の調査で36点の合計127点である。内3点が古墳時代前期の土師器の壺である。比率にすると約2%と僅少である。摩耗が著しいながらも二重口縁の壺と評価している。古代の土器は須恵器21点、土師器16点、黒色土器2点の計39点図示しており、比率は約31%である。この比率は、周辺に古代の遺跡の存在を示唆している。中世土器は合計85点で比率は約67%となる。内、土師質土器が13点、中世土器の比率にして約15%である。13世紀～15世紀の範囲に収まる。珠洲焼は55点、中世土器の約65%を珠洲焼が占める。さらにその内訳は片口鉢が32点、壺甕類が22点、転用砥石が1点となり、珠洲焼のなかで片口鉢の占める割合が約58%、壺甕類が約40%であった。珠洲焼以外の陶磁器では、越前焼の甕が4点、食膳具として、瀬戸美濃焼4点、常滑焼1点、白磁4点、青磁3点、青白磁1点となる。少量ではあるが輸入陶磁器が出土している。

石製品は17点図示している。砥石が11点と最も多く、次いで石硯が2点、縄文時代の磨製石斧、磨石、石鉢、不明石製品を1点ずつ図示している。砥石は井戸や溝からの出土が多い。なかでも仕上げ砥石と称されるものには、京都・鴨滝産のものがある。

木製品は20点図示しているが、すべて井戸から出土している。前回調査では漆器椀や箸などの食膳具も出土している。今回の調査では鎌の柄(47)が井戸から出土しており、樹種はスギと判明した。「井戸廃棄の祭祀」の「埋めてかま(鎌)わん」の語呂合わせか。SE21-055から出土した種実「モモ」と判明した。先ほどの鎌とは別に「埋め(梅)てよし(華)」の語呂合わせもあるが、実際は「モモ」が出土することが多いようである。ほかに、曲物底板(42・45)がサワラ?と同定され板状木製品(43)がスギ、同(44)がサワラ?と同定された。ほかに杭状木製品、部材など井戸廃棄時に投棄されたものが多い。

金属製品は10点図示している。小刀1点、刀子3点、鎌1点などの刃物が多い。今回の調査では遺構内から「開元通寶」、「元符通寶」、「聖宋元寶」の銭貨3点が出土した。図示していないが鉄滓、鍛冶滓、鑪の羽口片などの出土は、付近に製鉄、精練、鍛冶関連の遺構が存在する可能性をうかがわせる。

これらの遺物から当遺跡の盛期は、13世紀代と14～15世紀の2時期と考えられる。前回の報告書では、「堂古遺跡・下割遺跡の出土遺物は当時の日用品が多く、建物の中型・小型が主体となる。大型建物も少ないながら確認できるが、基本的には農業を生業とする集落と想定できる。」と評価している。今回出土の遺物もこれを追認する結果となった。

引用・参考文献

- 飯坂盛泰・河崎昭一ほか 2007 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 171 集 狐宮遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰・高橋保雄ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 227 集 狐宮遺跡Ⅱ 下割遺跡Ⅳ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 飯坂盛泰・山崎忠良ほか 2017 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 269 集 堂古遺跡・下割遺跡Ⅵ・二反割遺跡Ⅱ』 新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 石川智紀・山下 研ほか 2012 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 230 集 下割遺跡Ⅴ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 岩田 隆 1997 「第 2 節 越前」北陸中世土器研究会編『中・近世の北陸—考古学が語る社会史』 桂書房
- 岡本郁栄 1999 「第 1 節 新潟県の地形概観」新潟県考古学会編『新潟県の考古学』 高志書院
- 尾崎高宏・長沼吉嗣ほか 2011 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 217 集 下割遺跡Ⅲ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加賀真樹 1997 「第 1 節 珠洲宮」北陸中世土器研究会編『中・近世の北陸—考古学が語る社会史—』 桂書房
- 春日真実 1999 「第 2 節 土器編年と地域性」新潟県考古学会編『新潟県の考古学』 高志書院
- 加藤 学・荒川隆史 1999 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 93 集 和泉 A 遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学・杉田和宏ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 159 集 用言寺遺跡Ⅰ』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 木村孝一郎 2008 「越前焼の編年の研究ノート」『吾々の考古学』 和田晴吾先生選別記念論集刊行会
- 小島幸雄・中村美恵子 1984 「新潟県上越市 本長者原唐寺確認調査概要」新潟県上越市教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1982 『栗原遺跡 第 4 次・第 5 次発掘調査概報』 新潟県教育委員会・新潟県新井市教育委員会
- 坂井秀弥ほか 1984 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 35 集 今池遺跡 下新町遺跡 子安遺跡』 新潟県教育委員会
- 笹澤正史 2002 「3. 上越地方最大の須志器窯跡部—末野・日向窯跡部—」『三和村史』自然・考古編 新潟県三和村
- 笹澤正史 2003a 「第 1 節 時代概説」上越市史編さん委員会編『上越市史』資料編 2 考古 新潟県上越市
- 笹澤正史 2003b 「10 越前遺跡」上越市史編さん委員会編『上越市史』資料編 2 考古 新潟県上越市
- 笹澤正史 2003c 「30 向橋古窯跡群」上越市史編さん委員会編『上越市史』資料編 2 考古 新潟県上越市
- 佐藤 慎 2013 『妙高市埋蔵文化財調査報告書第 5 集 倉田遺跡』新潟県妙高市教育委員会
- 佐藤友子 2021 「上越市・下割遺跡Ⅹ現地説明会資料」国土交通省北陸地方整備局高田河川国道事務所・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 佐藤友子・城前喜英ほか 2015 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 251 集 清水田遺跡』新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 沢田 敦・細井佳浩ほか 2006 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第 154 集 三角田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 鎌崎誠治 2010 『馬小屋の考古学』 高志書院
- 高田平原団体研究グループ 1962 「高田平原の沖積層について—高田平原の団体研究・そのⅣ—」『研究紀要』第 7 号 新潟大学教育学部高田分校
- 高田平原団体研究グループ 1980 「高田平原の第四系とその形成史—新潟県第四系・その XXIV—」『研究紀要』第 25 号 新潟大学教育学部高田分校
- 高橋 勉 1984 『栗原遺跡 第 7 次・第 8 次発掘調査報告書』新潟県新井市教育委員会
- 鶴巻康志・水澤幸一 2003 「9 至徳寺遺跡（至徳寺館跡・至徳寺跡）」上越市史専門委員会考古部会編『上越市史叢書 8 考古—中・近世資料—』新潟県上越市

- 戸根与八郎 2003 『第1節 時代概説』上越市史専門委員会考古部会編『上越市史叢書8 考古-中・近世資料-』新潟県上越市
- 野村忠司^{ほか} 2009 『子安遺跡』新潟県上越市教育委員会
- 水澤幸一 2003 『3 横曽根遺跡』上越市史専門委員会考古部会編『上越市史叢書8 考古-中・近世資料-』新潟県上越市
- 水澤幸一 2005 『越後の中世土器』『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
- 藤澤良祐 2002 『瀬戸・美濃大窯編年の再検討』『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 2008 『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 細田尚克 2021 『下割遺跡IX』『埋文にいがた第116号』新潟県埋蔵文化財センター・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良・外山浩史^{ほか} 2003 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第120集 下割遺跡I』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良・金子正宏^{ほか} 2004 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第134集 下割遺跡II』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良・畠野義昭^{ほか} 2008 『新潟県埋蔵文化財調査報告書第201集 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山崎忠良 2017 『第V章 まとめ 3 総括 B 遺跡の動向』『新潟県埋蔵文化財調査報告書269集 堂古遺跡・下割遺跡VI・二反割遺跡II』新潟県教育委員会・公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 山本信夫^{ほか} 2000 『太宰府市の文化財第49集 太宰府条坊跡XV-陶磁器分類-』福岡県太宰府市教育委員会
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 吉岡康暢 2003 『珠洲焼概論』『平成15年埋蔵文化財実務研修① 珠洲焼概論』新潟県教育庁文化行政課

観 察 表

井戸観察表

遺構番号	グリッド	平面形	断面形	長軸・長径	短軸・短径	深さ	底面標高	新旧関係
SE21-004	5H20・6H16・21	円形	袋状	0.98	0.96	1.74	12.35	
SE21-009	6H24	—	—	0.79	(0.76)	0.87以上	13.21以下	
SE21-013	6I2	楕円形	筒状	1.10	0.92	1.29	12.79	>P21-060
SE21-018	6H25・6I5・7I1	不整形	袋状	2.04	1.39	2.18以上	11.86以下	
SE21-021	7I11・12・17	楕円形	袋状	(2.03)	1.78	1.61	12.20	>SD328
SE21-028	7I15・20・8I11・16	円形	—	1.34	1.24	1.48以上	12.49	<P21-027
SE21-033	8J10	円形	U字状	1.55	1.50	1.78	12.18	
SE21-040	9J11・12	—	—	0.90	(0.35)	1.43以上	12.65以下	
SE21-055	12K19・24	円形	袋状	0.67	0.58	(2.21)	11.74以下	<P21-083
SE21-059	8J3・4・8・9	—	U字状	1.76	(1.14)	1.54	12.47	
SE21-061	13K21・22・13L1・2	円形	袋状	1.15	1.00	2.41	11.53	
SE21-063	13L3・4	楕円形	—	1.30	1.04	0.95以上	13.04以下	
SE21-064	13L7	円形	—	1.13	1.04	0.83以上	13.14以下	
SE21-069	7I25・8I21	—	U字状	1.96	(1.64)	1.60以上	12.36以下	<P21-029
SE21-085	10J11・12・16・17	不整形	平円状	(2.86)	2.61	2.01	11.90	>SD318
SE21-086	9J15・10J11	—	平円状	2.18	1.46	1.26	12.66	>SD318

単位: m

溝観察表

遺構番号	グリッド	長軸方向	平面形	断面形	長さ	幅	深さ	新旧関係	備考
SD318	6I・7I	N-78°W	直線状	台形状	(7.08)	0.96~1.03	0.46		A-A'
SD318	10J・10K	N-14°E	直線状	箱状	(4.48)	0.84~1.20	0.22	<SE21-085・SE21-086	B-B'
SD328	7I	N-76°W	直線状	台形状	(5.14)	0.58~0.74	0.40	>P21-042	A-A'
SD328	9J・10J	N-14°E	直線状	弧状	(5.78)	0.46~0.59	0.12	>SE21-021	B-B'
SD366	9J	N-18°E	直線状	弧状	(5.98)	0.92~1.12	0.31	>SD21-041	
SD510	11K・12K	N-38°W	直線状	台形状	(4.58)	5.09~5.92	1.41		
SD21-041	9J	N-78°W	直線状	弧状	(4.77)	0.25~0.36	0.10	<SD366	
SD21-046	10J・10K	N-81°W	直線状	平円状	1.89	0.59~0.72	0.39		

単位: m

土坑・ピット観察表

単位: m									単位: m								
遺構番号	グリッド	平面形	断面形	長軸・長径	短軸・短径	深さ	新旧関係		遺構番号	グリッド	平面形	断面形	長軸・長径	短軸・短径	深さ	新旧関係	
SK21-002	5H20・20	楕円形	台形状	1.25	0.61	0.36			P21-043	10J17	円形	V字状	0.60	0.53	0.46		
SK21-003	5H20・25・6H16・21	円形	台形状	1.34	1.14	0.23			P21-044	9J6・11	楕円形	U字状	0.40	0.33	0.38		
SK21-024	7I18	—	平円状	(1.02)	0.88	0.46			P21-045	10J24	楕円形	U字状	0.34	0.32	0.46		
P21-001	5H18・19	円形	弧状	0.57	0.50	0.04			P21-047	10J25	円形	U字状	0.37	0.37	0.29		
P21-007	6H23	円形	漏斗状	0.35	0.34	0.48			P21-048	10J25	円形	U字状	0.36	0.42	0.34		
P21-008	6H23	楕円形	漏斗状	0.36	0.30	0.52			P21-049	10K5	楕円形	V字状	0.58	0.48	0.36	>P21-032	
P21-010	6H22・23	楕円形	漏斗状	0.42	0.33	0.59			P21-050	10K10	円形	U字状	0.38	0.29	0.45		
P21-011	6I2・3	楕円形	漏斗状	0.32	0.26	0.41			P21-051	10J25	楕円形	V字状	0.64	0.43	0.29	<P21-052	
P21-012	6H24	円形	U字状	0.31	0.29	0.32			P21-052	10J25	円形	V字状	0.32	0.31	0.42	>P21-051	
P21-014	6H24・6I4	円形	U字状	0.24	0.21	0.41			P21-053	8J3・4	円形	U字状	0.68	0.61	0.65		
P21-015	6I3	円形	V字状	0.30	0.28	0.54			P21-054	12L4・5	円形	U字状	0.40	0.34	0.54		
P21-016	6I10	円形	U字状	0.54	0.51	0.34			P21-056	12K24	楕円形	U字状	0.40	0.32	0.48		
P21-019	6H24	円形	漏斗状	0.39	0.36	0.60			P21-057	12L4	円形	U字状	0.32	0.29	0.46		
P21-022	7I15	—	U字状	0.26	(0.18)	0.26			P21-058	12L5	楕円形	漏斗状	0.97	0.62	0.75		
P21-023	7I14	円形	弧状	0.49	0.43	0.15			P21-060	6I2	—	V字状	(0.45)	(0.28)	0.51	<SE21-013	
P21-025	7I15	円形	U字状	0.43	0.37	0.22			P21-062	13L2	楕円形	漏斗状	0.46	0.35	0.46		
P21-026	7I15	楕円形	U字状	0.32	0.25	0.24			P21-065	13L1・2・5・6	円形	漏斗状	0.59	0.51	0.84		
P21-027	7I15・8I11	円形	U字状	0.38	0.32	0.44	>SE21-028		P21-066	13L9	円形	U字状	0.36	0.36	0.45		
P21-029	8I21	楕円形	U字状	0.46	0.34	0.36	>SE21-069		P21-067	13L9・14	円形	U字状	0.37	0.35	0.40		
P21-031	8I22	円形	漏斗状	0.45	0.44	0.64			P21-068	13L14	楕円形	U字状	0.54	0.41	0.53		
P21-032	10K5	—	U字状	0.36	(0.16)	0.26	<P21-049		P21-070	13L3・7・8	楕円形	漏斗状	0.64	0.50	0.77		
P21-034	8J4	円形	U字状	0.45	0.44	0.39			P21-071	13L7・8	円形	U字状	0.50	0.47	0.60		
P21-035	8J4・5	円形	U字状	0.44	0.42	0.67			P21-072	13L2	楕円形	U字状	0.42	0.35	0.58		
P21-036	8J4・5	楕円形	弧状	0.65	0.46	0.28			P21-075	13L13	—	U字状	(0.39)	0.26	0.42		
P21-038	9I1	円形	U字状	0.32	0.30	0.56			P21-076	13L8	楕円形	弧状	0.54	0.38	0.28		
P21-039	9J6	円形	U字状	0.35	0.32	0.46			P21-077	13L1	円形	U字状	0.33	0.31	0.48		

土器・陶磁器観察表

砂：砂粒、英：石英、雲：金雲母、黒：黒色粒子、海：海綿骨針、長：長石、チ：チャート

番号	種類	器種	時期	出土地点		口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	色調		胎土の 混入物	付着物		調整など		備考
				グリッド	遺構				層位	内側		外側	内面	外面	内面	
1	土師質土器	皿	13世紀前半	6f2	SE21-013	5.0	1.8	4.0	にぶい橙	にぶい橙				ナデ	ナデ	摩耗著しい
2	古墳	椀	15世紀前半	7f11	SE21-021	1	-	-	オリーブ灰	オリーブ灰					連弁彫刻	連弁文
3	土師質土器	皿	15世紀	8f10	SE21-033	14.0	3.7	6.5	浅黄緑	浅黄緑	砂			ロクロナデ	ロクロナデ、底部：糸切か	摩耗著しい
4	土師質土器	小皿	15世紀	8f10	SE21-033	9.5	2.5	6.0	浅黄緑	浅黄緑	砂			ロクロナデ	ロクロナデ	摩耗著しい
5	珠洲焼	片口鉢	V	8f10	SE21-033	-	-	-	灰	灰	砂			口縁部：櫛目状文、4条以上の櫛目	ナデ	口縁
6	珠洲焼	片口鉢	IV	8f3-8	SE21-059	-	-	-	灰	灰	砂			7条以上の櫛目	ナデ	全体的に風化
7	珠洲焼	片口鉢	V	13K22-13L2	SE21-061	-	-	-	灰黄	黄灰				ナデ	ナデ	
8	珠洲焼	片口鉢	IV	13K22-13L2	SE21-061	-	4.3	11.6	褐灰	褐灰				ナデ	ナデ	
9	珠洲焼	片口鉢	IV	13L3-4	SE21-063	-	6.9	12.5	青灰	暗青灰	砂、海			11条単位の櫛目	工土ナデ	内面：使用により摩耗、平滑
10	須恵器	杯蓋	Ⅲ～Ⅳ	7f24-25	SE21-069	-	-	1.7	青灰	明青灰	砂			7条以上の櫛目	ナデ	内面：扁平な宝珠模、壺型城丘陸奥跡
11	珠洲焼	片口鉢	Ⅲ	7f24-25	SE21-069	-	-	-	灰	灰	砂、海			7条以上の櫛目	ナデ	
12	珠洲焼	R模壺	IV	7f24-25	SE21-069	-	-	-	灰	灰				ナデ	ナデ	
13	白磁	皿	12世紀	10J16-17	SE21-085	-	-	-	灰白	灰白				陶縁		
14	土師質土器	皿	13世紀後半	10J11	SE21-086	11.7	3.1	5.5	にぶい橙	にぶい橙	黒、雲			ナデ	ナデ	摩耗著しい
15	珠洲焼	帯T模	Ⅱ	6H17-18	SE313	-	-	10.0	灰	灰白	砂			工土ナデ、帯形頭瓦状	西方禪文	西方禪文
16	須恵器	有台杯	IV	7f	SD318	1	-	1.3	8.0	灰	灰白			ロクロナデ	ロクロナデ	内面：摩耗、高台：首尻、壺型城丘陸奥跡
17	須恵器	有台杯	Ⅱ、2～3	7f	SD318	1	-	4.0	7.1	黄灰	にぶい橙	輪流		ロクロナデ	ロクロナデ	内面：輪流？、高台：首尻、壺型城丘陸奥跡
18	珠洲焼	帯R模	Ⅳ	10J21-22	SD318	-	1.8	12.0	黄灰	黄灰	海	煤		ナデ	底部：静止糸切	内面：煤付着
19	珠洲焼	帯T模	Ⅳ	10J21-22	SD318	-	3.8	12.0	灰	灰	砂、海			ナデ	底部：静止糸切	内面：摩耗
20	瀬戸美濃焼	小皿	15世紀前半	7f7-8	SD318	1	9.9	2.4	4.4	灰白	灰黄			ナデ	底部：へら切	口縁部のみ施釉
21	珠洲焼	転用灰石	Ⅲ以前	9f	SD366	-	-	7.0	暗青灰	青灰				あて具痕	平行タタキ	一般浴のみ使用部
22	土師器	小壺	I	12K	SD610	-	-	-	灰白	灰白	砂、雲			ナデ	ナデ	口縁部以下ココ方向ハケ？
23	須恵器	飯合杯	V	12K	SD610	-	-	9.9	黄灰	灰白				ロクロナデ	底部：へら切	小口流
24	須恵器	杯蓋	Ⅳ、2～3	12K	SD610	16.8	2.3	-	暗青灰	青灰				ロクロナデ	ロクロナデ	口縁部：帯右旋き痕？、天井部：摩耗、壺型城丘陸奥跡
25	須恵器	有台杯	Ⅲ	12K	SD610	-	2.0	8.0	灰	黄灰				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ
26	須恵器	帶類	-	12K	SD610	-	-	8.5	灰	灰	砂、黒			ロクロナデ	ロクロナデ	壺型城丘陸奥跡
27	珠洲焼	片口鉢	Ⅳ～Ⅴ	12K	SD610	-	-	16.0	青灰	青灰	砂、海			7条以上の櫛目	ナデ	内面：使用により摩耗、平滑
28	珠洲焼	帯	14世紀	12K	SD610	-	8.4	2.8	灰	灰	砂、黒、海			ナデ	底部：静止糸切	
29	常滑焼	小壺	13世紀前半	12K	SD610	-	-	-	褐灰	褐灰	砂、海			ナデ	ナデ	口縁部
30	瀬戸美濃焼	椀	14世紀後半	12K	SD610	-	-	-	オリーブ黄	オリーブ黄						細かな文入
31	土師器	長胴壺	I	6H18-19	P21-001	1	19.1	31.7	5.6	にぶい橙	にぶい橙			ココ方向ハケム、タテ方向ハケム	タテ方向ハケム、タテ方向ハケム	飛鳥時代
32	珠洲焼	壺	Ⅲ～Ⅳ	8f	Ⅲ	-	-	-	褐灰	褐灰	砂、海			ナデ、首尻	平行タタキ	口縁部：大きく外方に屈曲、底部がゆるぎに下がる、縦面に煤付着
33	珠洲焼	片口鉢	Ⅲ	7f15	Ⅲ	-	-	-	灰黄緑	褐灰	砂			ナデ	ナデ	口縁部：内方への凸み
34	珠洲焼	片口鉢	Ⅲ～Ⅳ	8f	Ⅲ	-	5.0	16.0	黄灰	灰白	黒			10条以上の櫛目	底部：静止糸切	内面：使用により摩耗、平滑
35	越前焼	壺	14世紀	7f13		-	-	5.3	灰褐	褐灰	砂			ナデ、首尻	1×6以上の格子文押印	
36	古白磁	椀	13世紀	7f	I	12.0			明緑灰	明緑灰						内面：明緑書文？

観察表

石製品観察表

番号	器種	出土地点			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	付着物	使用痕等	遺存状況	備考
		グリッド	遺構	層位									
37	石鏡	7I11・12	SE21-021		(6.8)	6.9	1.6	64.0	粘板岩		擦痕	2/3以上欠失	転用か
38	砥石	13K22・13L2	SE21-061		(20.8)	8.4	6.4	1210.0	砂岩		擦痕	片断部欠失	在地産
39	砥石	13L7	SE21-064		(3.8)	(2.7)	0.5	7.2	珉質頁岩		輪状痕	四方欠失	京都・鴨滝産
40	砥石	12K	SD510		(12.0)	3.6	3.0	193.0	凝灰岩		輪状痕	片断部欠失	在地産
41	砥石	SJ3			(11.1)	3.1	2.7	113.0	凝灰岩		擦痕	片断部欠失	群馬・上野産?

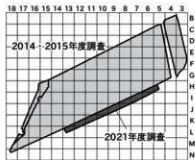
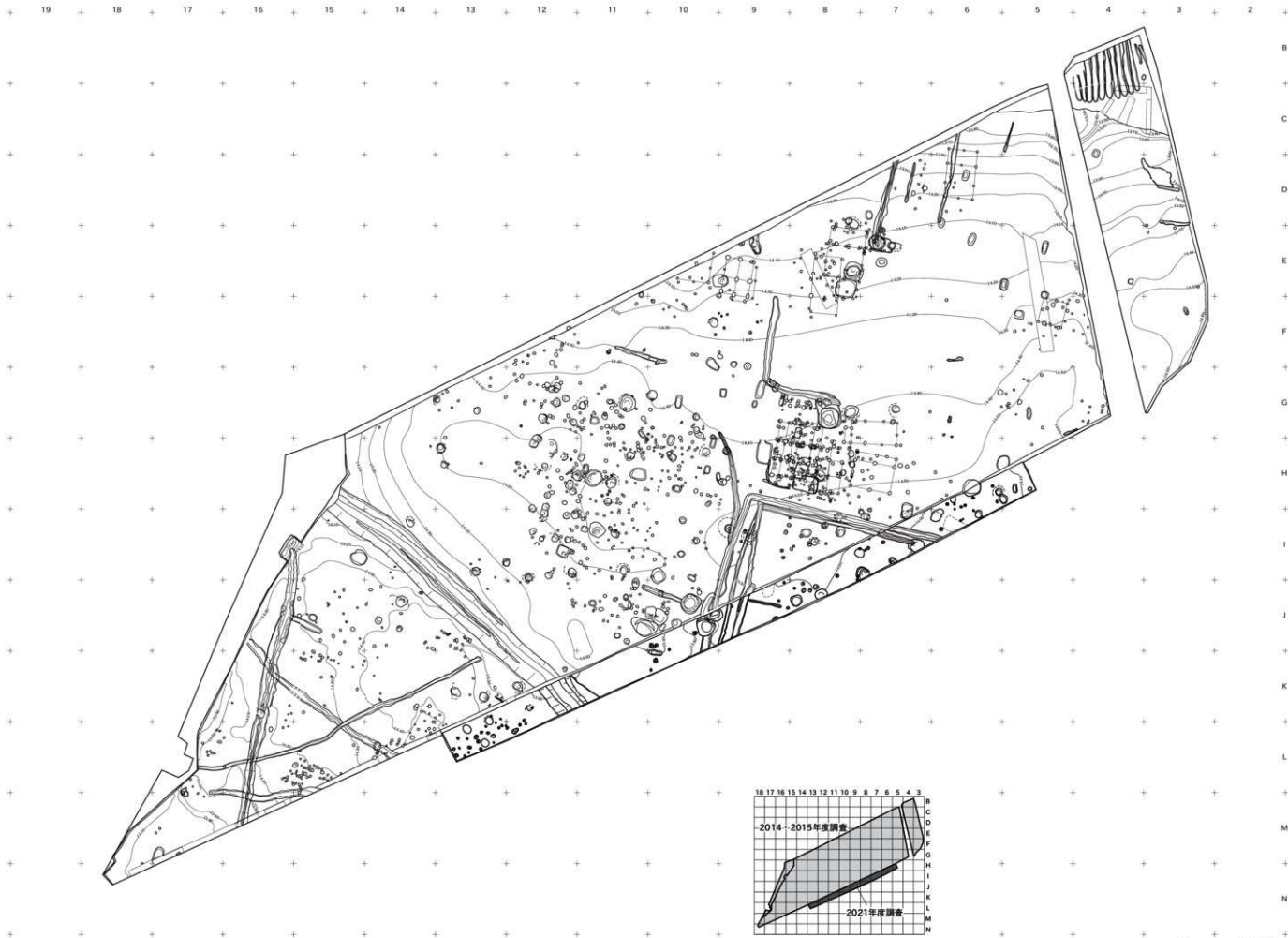
木製品観察表

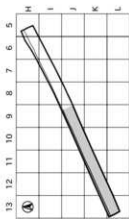
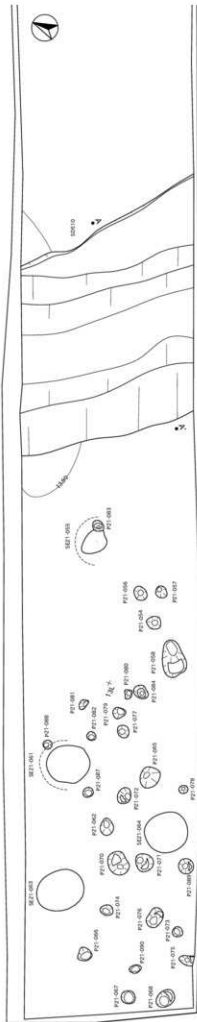
番号	器種	出土地点			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	遺存状況	木取り・磨削	備考
		グリッド	遺構	層位						
42	曲物底板	12K24	SE21-055	3	18.8	4.3	0.9	3/4欠	榫口・サワラ?	外面に黒漆、木釘
43	長方形板	12K24	SE21-055	3	31.1	9.4	1.0	1/6欠失	板口・スギ	木釘、幾痕あり
44	長方形板	12K23	SE21-055	3	23.5	4.8	0.6	完形	榫口・サワラ?	木釘
45	曲物底板	13K22・13L2	SE21-061	5	17.6	4.0	1.2	2/3欠	榫口・サワラ?	
46	曲物底板	13K22・13L2	SE21-061	5	24.4	8.9	1.1	1/2欠	榫口	
47	鎌柄	13L3・4	SE21-063		33.4	3.2	2.4	刃部一部遺存	板口・スギ	柄部

金属製品観察表

番号	器種	出土地点			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	遺存状況	備考
		グリッド	遺構	層位						
48	鉄貨	12K21	SD510	1	2.6	3.2	1.1	19.8	7枚が鏡前	「開元通寶」他6枚
49	鉄貨	10J16	SE21-085	1	2.5	2.6	0.3	2.7	状態劣悪	「元符通寶」
50	鉄貨	10J11・12・16・17	SE21-085		2.5	2.4	1.0	—	土塊に付着	「聖徳元寶」

圖 版

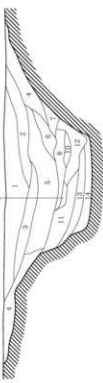




- SET010
 1 黒色土質硬質土(10YR5/3) 粘砂質、しまり強、硬砂質層
 2 黒褐色砂質粘土(10YR3/2) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 3 褐色砂質粘土(10YR3/2) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 4 褐色粘土(10YR4/3) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 5 褐色砂質粘土(10YR4/4) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 6 褐色砂質粘土(10YR4/7) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 7 褐色砂質粘土(10YR5/4) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 8 褐色砂質粘土(10YR5/5) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 9 黒色土質硬質土(10YR3/1) 粘砂強、しまり強、硬砂質強層
 10 二色土質硬質土(10YR3/4) 粘砂強、しまり強、硬砂質強層
 11 (10YR3/2) プラック層粘土
 12 黒色土質硬質土(10YR3/1) 粘砂強、しまり強、硬砂質強層
 13 褐色砂質粘土(10YR4/3) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 14 褐色砂質粘土(10YR4/4) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 15 褐色砂質粘土(10YR4/7) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 16 褐色砂質粘土(10YR5/4) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 17 プラック層粘土
 18 褐色砂質粘土(10YR5/5) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 19 褐色砂質粘土(10YR5/6) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 20 プラック層粘土



A. SD21-041 A' 14.2m A'' 14.1m

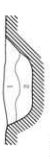


SET010
 1 黒色土質硬質土(10YR3/3) 粘砂強、しまり強、硬砂質強層
 2 褐色砂質粘土(10YR5/5) プラック層粘土

B. SD318 B' 14.2m B'' 14.2m



SD318 断面
 1 黒色土質硬質土(10YR3/2-3/2) 粘砂強、しまり強、硬砂質強層
 2 褐色砂質粘土(10YR5/5) プラック層粘土

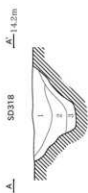
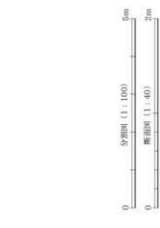
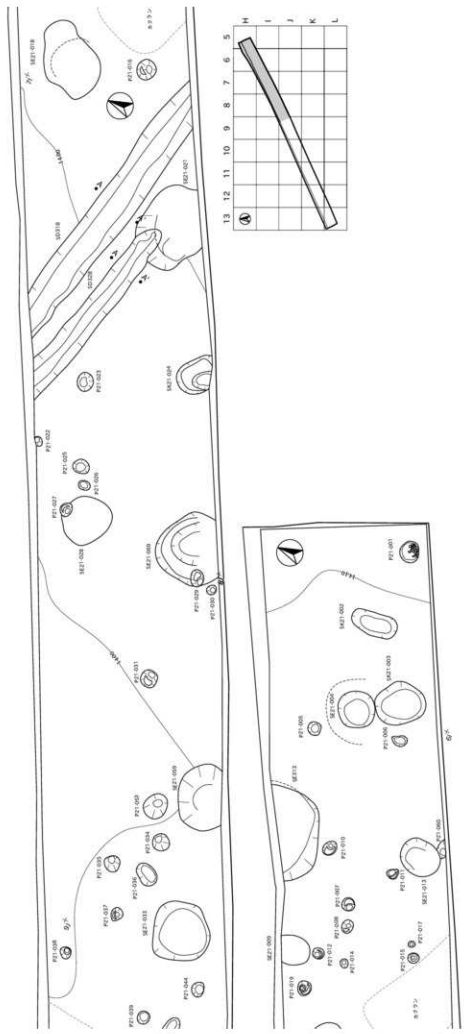


SD366

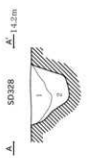
SD328 断面

1 褐色砂質粘土(10YR3/6) 粘砂中、しまり強、硬砂質中層
 2 褐色砂質粘土(10YR5/5) プラック層粘土

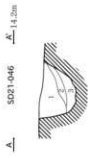
SD366 断面
 1 褐色砂質粘土(10YR3/3) 粘砂強、しまり強、硬砂質強層
 2 褐色砂質粘土(10YR5/5) プラック層粘土



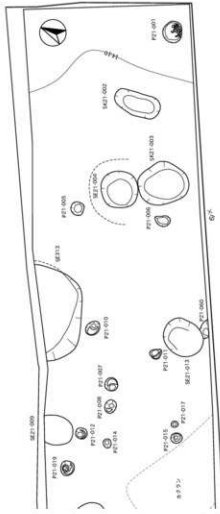
S0318 A.A.
 1 築造層 E (107K4.2~4.6) 礎石、土層中、
 2 築造層 E (107K4.4~5.0) 7段階分層状、
 3 築造層 E (107K4.5~5.0) 7段階分層状、
 (107K4.5~5.0) 礎石、土層中、築造層 E



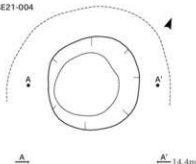
S0328 A.A.
 1 築造層 E (107K3.2) 礎石、土層中、
 2 築造層 E (107K3.2) 礎石、土層中、
 築造層 E (107K3.4~5.0) 7段階分層状、
 築石、



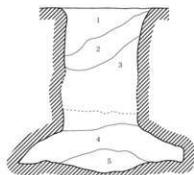
S021-046
 1 築造層 E (107K3.2) 礎石、土層中、
 2 築造層 E (107K3.2) 礎石、土層中、
 3 築造層 E (107K3.2) 礎石、土層中、



SE21-004



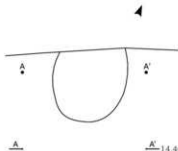
A A' 14.4m



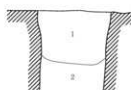
SE21-004

- 1 土色・黄褐色粘質土 (10YR4/3) 粘粒質、しまり中、炭化物微量・褐色粘質土 (10YR4/4) ブロック少量含む。
- 2 土色・黄褐色粘質土 (10YR4/3) 粘粒中、しまり弱。炭化物微量・褐色粘質土 (10YR4/4) ブロック中量含む。
- 3 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒強、しまり弱。炭化物少量・褐色粘質土 (10YR4/4) ブロック少量含む。
- 4 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒強、しまり弱。炭化物・土色・黄褐色 (10YR7/3) ブロック少量含む。
- 5 土色・黄褐色粘質土 (10YR7/2) 粘粒強、しまり弱。

SE21-009



A A' 14.4m



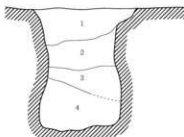
SE21-009

- 1 土色・黄褐色粘質土 (10YR4/3) 粘粒中、しまり弱。褐色粘質土 (10YR4/4) ブロック少量含む。
- 2 黄褐色粘質土 (10YR4/2) 粘粒強、しまり弱。褐色粘質土 (10YR4/4) ブロック中量含む。

SE21-013



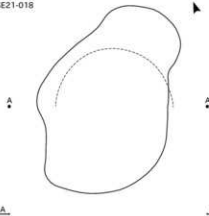
A A' 14.2m



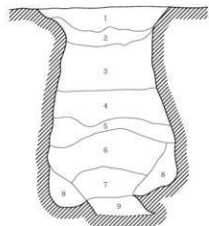
SE21-013

- 1 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒強、しまり強。炭化物・浅黄褐色粘質土 (2.5Y7/4) ブロック少量含む。
- 2 浅黄褐色粘質土 (2.5Y7/4) 粘粒強、しまり弱。炭化物・暗褐色粘質土 (10YR3/3) ブロック少量含む。
- 3 浅黄褐色粘質土 (2.5Y7/4) 粘粒強、しまり弱。炭化物・暗褐色粘質土 (10YR3/3) ブロック少量含む。
- 4 浅黄褐色粘質土 (2.5Y7/4) 粘粒強、しまり弱。炭化物少量・暗褐色粘質土 (10YR3/3) ブロック微量含む。

SE21-018



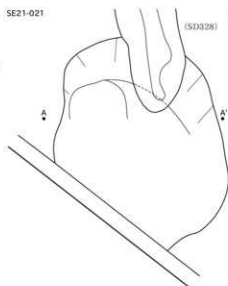
A A' 14.4m



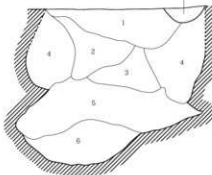
SE21-018

- 1 暗褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒中、しまり強。褐色・土色・黄褐色粘質土 (10YR4/4~5/4) ブロック微量含む。
- 2 土色・黄褐色粘質土 (10YR5/4~6/4) 粘粒強、しまり中。暗褐色粘質土 (10YR3/3) ブロック少量含む。
- 3 土色・黄褐色粘質土 (10YR7/2) 粘粒強、しまり中。
- 4 土色・黄褐色粘質土 (10YR7/3) 粘粒強、しまり弱。炭化物少量。
- 5 土色・黄褐色粘質土 (10YR7/2) 粘粒強、しまり中。
- 6 黄褐色粘質土 (10YR7/2) 粘粒強、しまり中。土色・黄褐色粘質土 (10YR7/2) ブロック少量含む。
- 7 暗褐色粘質土 (10YR5/1) 粘粒中、しまり弱。黄褐色粘質土 (10YR5/1) ブロック少量含む。
- 8 土色・黄褐色粘質土 (10YR7/2) 粘粒中、しまり弱。
- 9 オリーブ灰粘質土 (5GY6/1) 粘粒強、しまり弱。

SE21-021



A A' 14.4m

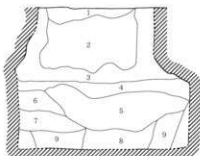
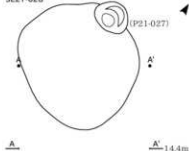


SE21-021 層序図

SE21-021

- 1 黄褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘粒強、しまり強。炭化物微量・黄褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック少量含む。
- 2 黄褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘粒強、しまり強。炭化物微量・黄褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック少量含む。
- 3 黄褐色粘質土 (2.5Y3/2) 粘粒強、しまり中。炭化物・黄褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック微量含む。
- 4 褐色粘質土 (10YR4/6) 粘粒中・強、しまり中。
- 5 暗褐色粘質土 (10YR3/1~3/2) 粘粒中、しまり中。炭化物微量・褐色粘質土 (10YR4/6) ブロック少量含む。
- 6 暗灰黄色粘質土 (2.5YR5/2~5/3) 粘粒中・強、しまり中・中。炭化物微量。

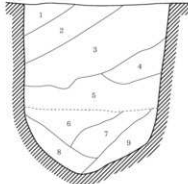
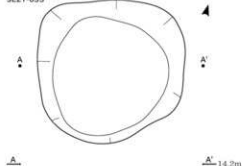
SE21-028



SE21-028

- 1 褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒中、しまり強、褐色~に濃い黄褐色土 (10YR4/4~5/4) プロック少量含む。
- 2 に濃い黄褐色土 (10YR5/4~4/4) 粘粒弱、しまり中、黄褐色粘質土 (10YR3/3) プロック少量含む。
- 3 に濃い黄褐色粘質シルト (10YR7/2) 粘粒強、しまり中。
- 4 に濃い黄褐色土 (10YR7/2) 粘粒強、しまり強、黄仁性多。
- 5 に濃い黄褐色粘質シルト (10YR7/2) 粘粒強、しまり中。
- 6 黄褐色粘質土 (10YR3/1) 粘粒強、しまり中、に濃い黄褐色土 (10YR7/2) プロック少量含む。
- 7 緑黄色粘質シルト (10YR7/1) 粘粒中、しまり弱、黄褐色粘質土 (10YR3/1) プロック少量含む。
- 8 に濃い黄褐色シルト (10YR7/2) 粘粒、しまり弱。
- 9 オリーブ黄粘質シルト (10YR7/1) 粘粒強、しまり弱。

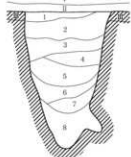
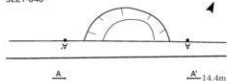
SE21-033



SE21-033

- 1 黄褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒弱、しまり中。
- 2 黄褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒強、しまり中、黄褐色粘質土 (10YR5/6) プロック少量含む。
- 3 黄褐色粘質土 (10YR3/4) 粘粒、しまり中、黄褐色粘質土 (10YR5/6) プロック少量含む。
- 4 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒強、しまり中、黄褐色粘質土 (10YR5/6) プロック少量含む。
- 5 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒中、しまり弱、黄褐色粘質土 (10YR3/2) プロック少量含む。
- 6 に濃い黄褐色粘質シルト (2.5YR/3) 粘粒、しまり中、炭化物少量含む。
- 7 に濃い黄褐色粘質シルト (2.5Y7/3) 粘粒、しまり中、炭化物少量含む。
- 8 に濃い黄褐色粘質シルト (10YR7/2) 粘粒中、しまり弱。
- 9 に濃い黄褐色土 (10YR7/4) 粘粒強、しまり弱、炭化物少量含む。

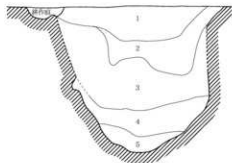
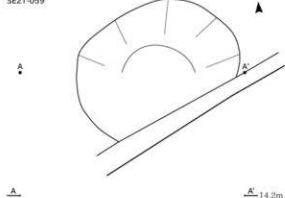
SE21-040



SE21-040

- 1 黄褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒強、しまり強、炭化物微量含む。
- 2 黄褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒強、しまり強、炭化物微量、黄褐色粘質土 (10YR5/6) プロック少量含む。
- 3 黄褐色粘質土 (10YR3/3) 粘粒、しまり中、炭化物少量、黄褐色粘質土 (10YR5/6) プロック少量含む。
- 4 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒強、しまり中、炭化物少量、黄褐色粘質土 (10YR5/6) プロック少量含む。
- 5 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒強、しまり中、炭化物微量、黄褐色粘質土 (10YR3/3) プロック少量含む。
- 6 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒、しまり中、炭化物、黄褐色粘質土 (10YR5/6) プロック少量含む。
- 7 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒強、しまり弱、炭化物微量、黄褐色粘質土 (10YR3/2) 中量含む。
- 8 褐色シルト (10YR4/6) 粘粒、しまり弱、黄褐色粘質土 (10YR5/6) プロック少量含む。

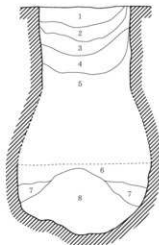
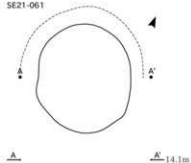
SE21-059



SE21-059

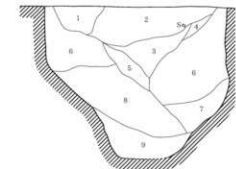
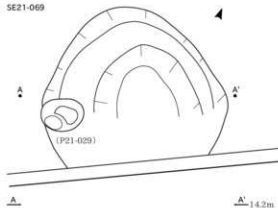
- 1 に濃い黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘粒中、しまり強、黄褐色粘質土 (10YR3/3) プロック少量含む。
- 2 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 粘粒、しまり中、に濃い黄褐色粘質土 (10YR5/4) プロック少量含む。
- 3 黄褐色粘質土 (10YR3/4) 粘粒中、しまり中~強、炭化物微量含む。
- 4 黄褐色粘質シルト (10YR8/3) 粘粒、しまり中。
- 5 に濃い黄褐色粘質シルト (10YR7/2) 粘粒中、しまり弱。

SE21-061



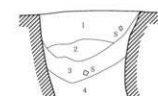
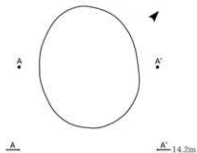
- SE21-061
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、炭化物微量含む。
 - 2 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性强、しまり強、炭化物微量、黒褐色 (2.5GY6/6) ブロック少量含む。
 - 3 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性强、しまり強、炭化物微量含む。
 - 4 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、炭化物微量含む。
 - 5 黒褐色粘質土 (10YR3/4) 粘性强、しまり強。
 - 6 浅黄褐色土 (10YR8/4) 粘性强、しまり強。
 - 7 明黄褐色土 (8YR7/1) 粘性强、しまり強。
 - 8 黒褐色粘土 (10YR2/1) 粘性强、しまり強。

SE21-069



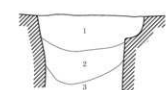
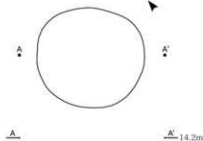
- SE21-069
- 1 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性强、しまり中強。
 - 2 褐色粘土 (10YR2.5/3.2) 粘性强、しまり中、炭化物微量、暗灰黄シルト (2.5Y5/2) ブロック微量含む。
 - 3 褐色粘土 (10YR4/4) 粘性强、しまり中。
 - 4 褐色粘土 (10YR3/3) 粘性强、しまり中、黄褐色粘土 (10YR5/6) ブロック少量含む。
 - 5 褐色粘土 (10YR3/3) 粘性强、しまり中、炭化物、黄褐色粘土 (10YR5/6) ブロック微量含む。
 - 6 褐色粘土 (10YR5/6) 粘性强、しまり中、炭化物、褐色粘土 (10YR3/4) ブロック微量含む。
 - 7 浅黄褐色シルト (2.5Y7/3) 粘性强、しまり中、炭化物微量含む。
 - 8 黄褐色粘土 (10YR5/6) 粘性强、しまり中、炭化物微量含む。
 - 9 白っぽい黄シルト (2.5Y6/4) 粘性强、しまり中、炭化物微量。

SE21-063



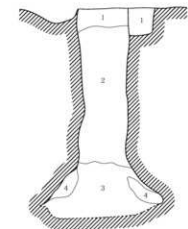
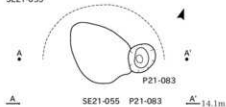
- SE21-063
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、炭化物少量含む。
 - 2 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性强、しまり強、炭化物少量含む。
 - 3 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、炭化物微量、黒褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック少量含む。
 - 4 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、炭化物微量、黒褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック少量含む。

SE21-064

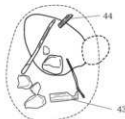


- SE21-064
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、炭化物微量、黒褐色粘土 (10YR5/6) ブロック微量含む。
 - 2 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性强、しまり強、炭化物、黒褐色粘土 (10YR5/6) ブロック少量含む。
 - 3 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性强、しまり強、炭化物微量、黒褐色粘土 (10YR5/6) ブロック少量含む。

SE21-055



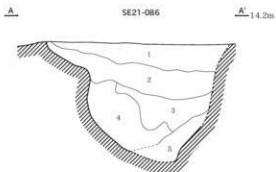
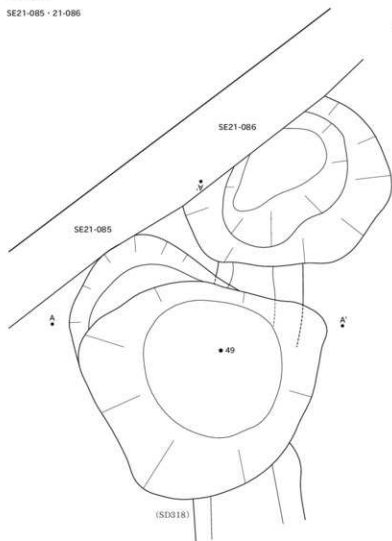
SE21-055 出土状況



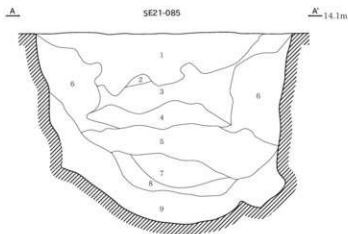
- SE21-055
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、炭化物微量含む。
 - 2 黒褐色粘土 (10YR3/2) 粘性强、しまり強。
 - 3 黒褐色粘土 (10YR3/1) 粘性强、しまり強、オリーブ灰土 (2.5GY6/1) ブロック少量含む。
 - 4 オリーブ灰土 (2.5GY6/1) 粘性强、しまり強。

- P21-083
- 1 黒褐色粘質土 (10YR3/3) 粘性强、しまり強、黄褐色粘土 (10YR5/6) ブロック少量含む。

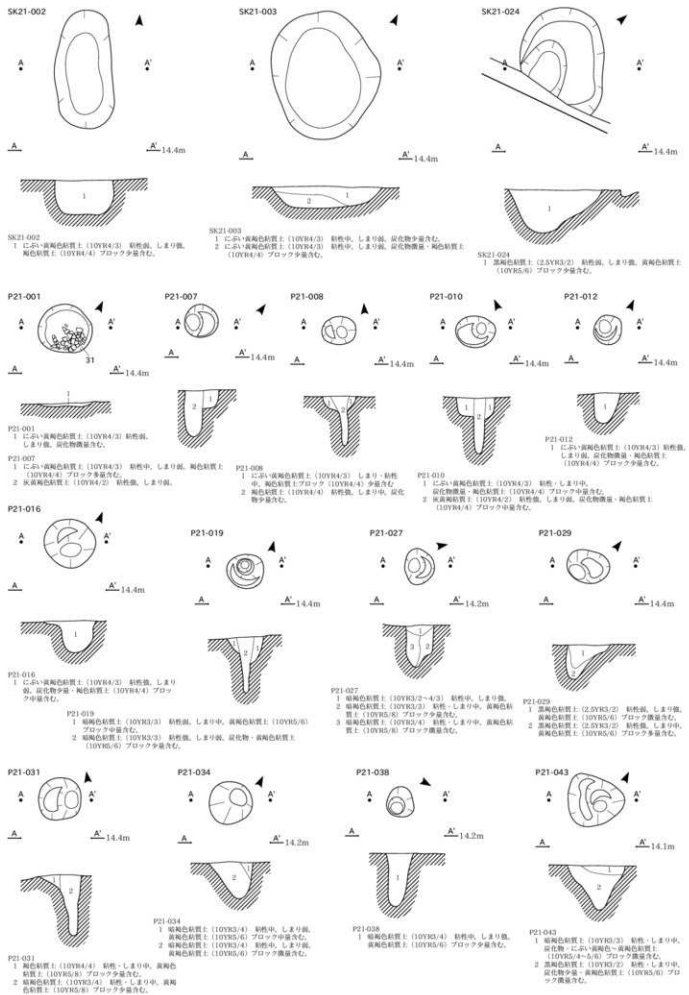
SE21-085・21-086

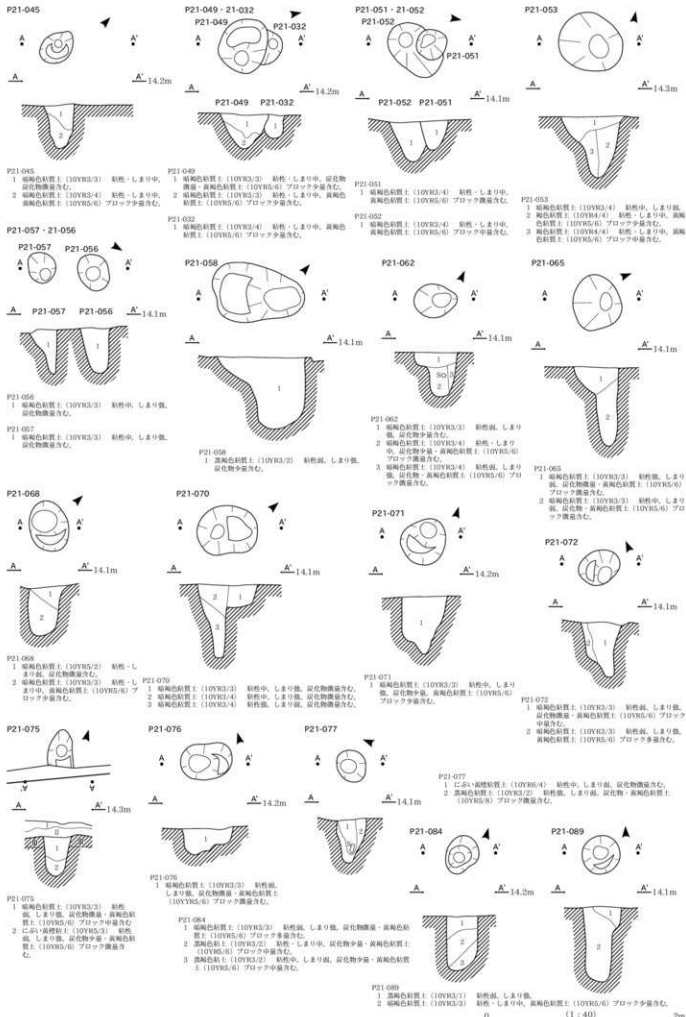


- SE21-086
- 1 赤褐色粘質土 (10YR3/3) 新性中・しまり部一部、黄褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック散在含む。
 - 2 黒一帯褐色粘質土 (10YR3/2~3/2) 粘性・しまり中、炭化物塊・黄褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック少量含む。
 - 3 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 新性中一部、しまり中、黄褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック少量含む。
 - 4 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 新性中一部、しまり部一部、黄褐色粘質土 (10YR3/2) ブロック少量含む。
 - 5 黄褐色粘質土 (10YR3/2) 新性中、しまり部一部。

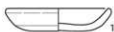


- SE21-085
- 1 黄褐色粘質土 (10YR3/4) 粘性・しまり中、黄褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック散在含む。
 - 2 黄褐色粘質土 (10YR3/4) 粘性・しまり中、黄褐色粘質土 (10YR5/6) ブロック散在含む。
 - 3 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性塊、しまり部一部、黄褐色粘質土 (10YR3/4) ブロック散在含む。
 - 4 黄褐色粘質土 (10YR3/2~3/2) 粘性中一部、しまり部一部、黄褐色粘質土 (2.5Y5/3) ブロック散在含む。
 - 5 黄褐色粘質土 (2.5Y5/3~5/4) 粘性中一部、しまり部一部、黄褐色粘質土 (10YR3/2) ブロック中量含む。
 - 6 黄褐色粘質土 (10YR5/6) 粘性・しまり部、炭化物塊散在含む。
 - 7 黄褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性塊、しまり部、炭化物塊散在含む。
 - 8 灰黄色粘土 (10YR7/2) 粘性塊、しまり中。
 - 9 褐色砂 (7.5YR4/6) 新性弱、しまり中。





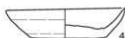
SE21-013 (1)



SE21-021 (2)



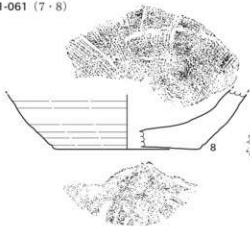
SE21-033 (3~5)



SE21-059 (6)



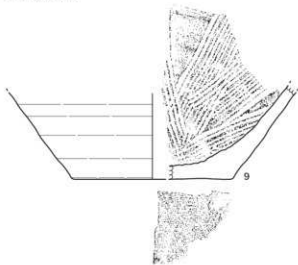
SE21-061 (7・8)



SE21-069 (10~12)



SE21-063 (9)



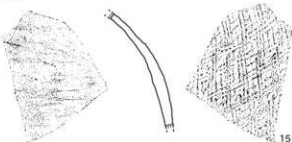
SE21-085 (13)



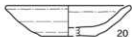
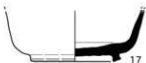
SE21-086 (14)



SE313 (15)



SD318 (16~20)



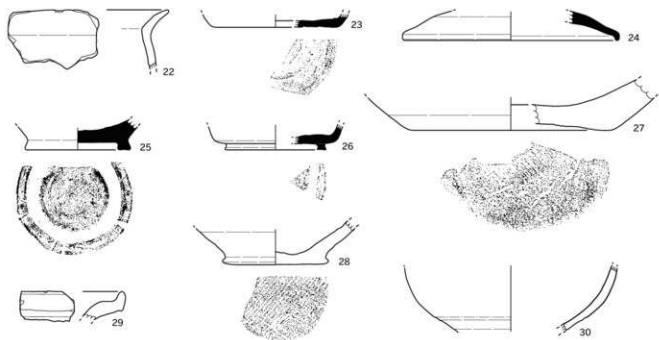
SD366 (21)



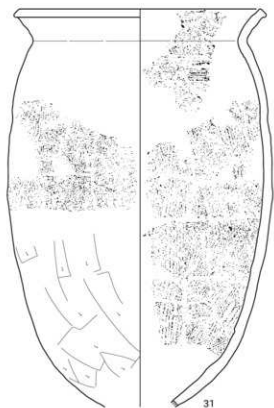
■ 磁面

0 (1~21) 15cm (1:3)

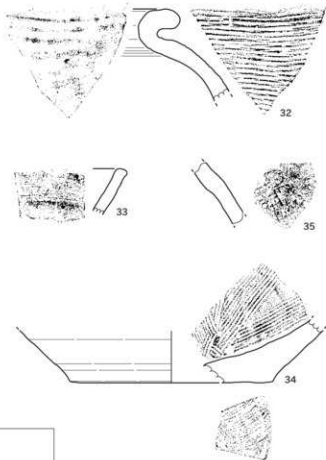
SD510 (22~30)



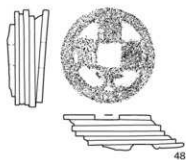
P21-001 (31)



遺構外 (32~36)



SD510 (48)



P21-058 (49)



0 (22~30) 15cm (1:3)
0 (48~49) 5cm (1:1)

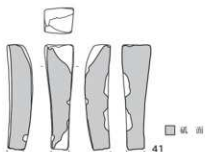
SE21-021 (37)



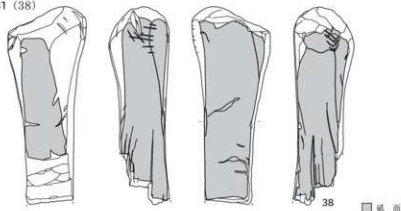
SE21-064 (39)



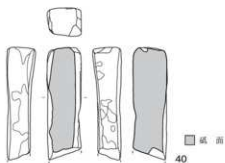
遺構外 (41)



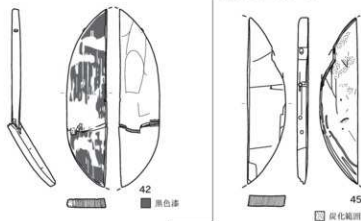
SE21-061 (38)



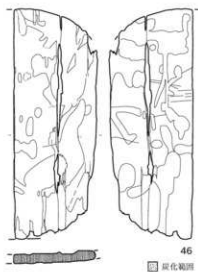
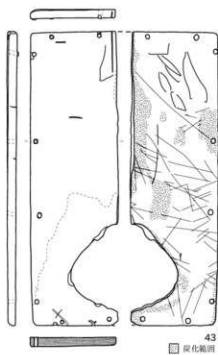
SD510 (40)



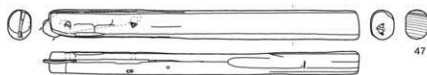
SE21-061 (45・46)



SE21-055 (42~44)



SE21-063 (47)





2014・2015・2021年度調査(合成写真) 堂古遺跡・下割遺跡(上空から)



堂古遺跡遠景(北東上空から)



堂古遺跡遠景(北西上空から)



SE21-004 断面上部 (南東から)



SE21-004 完掘上部 (南東から)



SE21-004 断面下部 (南東から)



SE21-004 完掘下部 (南東から)



SE21-013 断面上部 (南から)



SE21-013 完掘上部 (南東から)



SE21-013 断面下部 (南から)



SE21-013 完掘下部 (南から)



SE21-018 完掘上部 (北東から)



SE21-018 断面下部 (南西から)



SE21-028 断面上部 (南東から)



SE21-028 断面下部 (北西から)



SE21-033 断面上部 (南東から)



SE21-033 完掘上部 (南東から)



SE21-033 断面下部 (南東から)



SE21-033 完掘下部 (南東から)



SE21-040 断面下部 (北西から)



SE21-055・P21-083 断面上部 (南東から)



SE21-055・P21-083 完掘上部 (南東から)



SE21-055 断面下部 (南東から)



SE21-055 遺物出土状況 (南東から)



SE21-061 断面上部 (南東から)



SE21-061 完掘上部 (南東から)



SE21-063 断面上部 (南東から)



SE21-063 完掘上部 (南東から)



SE21-064 断面上部 (南西から)



SE21-064 完掘上部 (南西から)



SE21-069 断面下部 (南東から)



SE21-069 完掘下部 (南東から)



SE21-085 断面上部 (南西から)



SE21-085 遺物(49) 出土状況 (北西から)



SE21-085 完掘上部 (南から)



SE21-085 断面下部(南西から)



SE21-086 断面(北東から)



SD318 断面 A-A'(北西から)



SD318 断面 B-B'(南西から)



SD318 718 グリッド遺物出土状況(北から)



SD328 断面 A-A'(北西)



SD328 断面 B-B'(南西から)



SD366 断面(南西から)



SD510 断面 (北西から)



SD510 完掘 (北西から)



SD510 11K19・20 グリッド遺物出土状況 (南東から)



SD510 12K21 グリッド遺物 (48) 出土状況 (南東から)



SD21-046 断面 (南東から)



SD21-046 完掘 (南東から)



SD318・328 完掘 (北西から)



SD318・328・366 完掘 (南西から)



SK21-002 断面(南から)



SK21-002 完掘(南から)



SK21-003 断面(南東から)



SK21-003 完掘(南東から)



P21-001 遺物(31)出土状況(南東から)



P21-001 完掘(南東から)



P21-007 完掘(南東から)



P21-016 断面(南東から)



P21-031 完掘 (南から)



P21-062 断面 (南東から)



P21-062 完掘 (南東から)



P21-065 断面 (南東から)



P21-065 完掘 (南東から)



P21-070 完掘 (南東から)



P21-072 完掘 (北東から)



P21-089 完掘 (南東から)

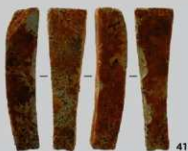




48~50 (1:1)
 29・35・36 (1:2)
 その他 (1:3)



40



41



38



42



43



44



47



45



46



47

報告書抄録

ふりがな	どうこいせき に だいさんじちようさ							
書名	堂古遺跡Ⅱ 第3次調査							
副書名	一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書							
巻次	14							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第292集							
編著者名	佐藤友子(新潟県埋蔵文化財調査事業団) 藤本隆之、高尾将矢(以上、株式会社ノガミ) 田中義文、松元美由紀(以上、ハリノ・サーヴェイ株式会社)							
編集機関	公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒956-0845 新潟県新潟市秋葉区金津93番地1 TEL. 0250(25)3981							
発行年月日	2022(令和4)年8月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
堂古遺跡 第3次調査	新潟県上越市 米岡字堂古	15222	1549	37° 08′ 04″	138° 19′ 09″	20210510～ 20210623	415	一般国道253号 上越三和道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項
堂古遺跡 第3次調査	散布地 集落跡	古代 中世	井戸17基、溝6 条、土坑3基、 ピット69基	土師器、須恵器、土師質土器、珠洲焼、 越前焼、瀬戸美濃焼、青磁、白磁、砥石、 石硯、鎌、錢貨、鉄洋、鍛冶洋・羽口、 曲物				井戸多数
要約	<p>高田平野の飯田川左岸の自然堤防上に立地する中世(13世紀～15世紀)の集落跡である。標高は13.3～14.5mである。区画溝と考えられるSD318・SD328の内側、堀と考えられるSD510の東側には井戸が集中する。また、SD510の南東側にはピットが集中しており、掘立柱建物が存在した可能性が高い。当該時期において井戸が多いのは当遺跡の大きな特徴である。</p> <p>古代の土器の多くは中世の遺構覆土から中世遺物と混在して出土した。P21-001は唯一、古代の遺構と断定できる。遺物の質、量から周辺に古代の遺跡の中心が存在すると考えられる。</p> <p>遺物は古代の土師器、須恵器のほか、中世の土師質土器、珠洲焼、越前焼、瀬戸美濃焼、青磁、白磁、砥石、曲物、板状木製品、鎌、錢貨、鉄洋、鍛冶洋・羽口などが出土した。</p> <p>天目茶碗、青白磁、近世陶磁器の細片も出土している。</p>							

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第292集
一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書 14
堂古遺跡Ⅱ 第3次調査

2022(令和4)年8月30日印刷
2022(令和4)年8月31日発行

編集・発行 公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
電話 0250(25)3981
FAX 0250(25)3986

印刷・製本 株式会社ハイングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針1丁目11番8号
電話 025(233)0321

※全ての図表・図面図版の標高値を0.3m高く読み替える。

[例]

